

蓬州舊勝錄 十三

慶和縣  
史編纂  
係之印

共拾九冊

第四門

品目	調製	費
年月日	昭和三年	三月
場所		

294
ス
1-13





蓬州舊稿錄

十三

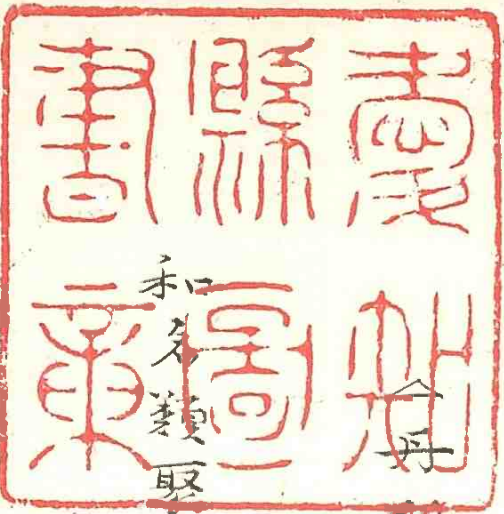
丹羽郡

共十九冊

第九百七拾四號

蓬列舊勝録卷之十五

鈴茶町編集



丹羽郡ノ部

迹波

五カツラ  
穂積  
穂積  
前カ

大穂イナギ  
小引水以奈水

上カ  
下沼春

丹イハ  
上沼羽

延喜式神名帳云

丹羽郡廿一座大一所謂

阿豆良<sup>アツ</sup>田縣<sup>タアカラ</sup>

稲木<sup>イナギ</sup>石作<sup>イシノリ</sup>

山那<sup>ヤマナ</sup>

伊賀<sup>イガ</sup>系<sup>ケイ</sup>波<sup>ハ</sup>

前利<sup>サキト</sup>諸鐸<sup>モロクハ</sup>

生田<sup>イクタ</sup>

阿具麻<sup>アグマ</sup>針綱<sup>ハリツナ</sup>

託美<sup>タクミ</sup>宅美<sup>タクミ</sup>

削栗<sup>セウクリ</sup>

鳴海<sup>ナガミ</sup>杵<sup>シ</sup>虫鹿<sup>ムシカ</sup>

立野<sup>タキノ</sup>井手<sup>イデ</sup>

小口<sup>コグチ</sup>

鹽道<sup>シホミチ</sup>大縣<sup>オホアガタ</sup>

名神大令ノニノ宮



A294  
ス  
1-13



○南郡村号九百十一村

△一節ノ下

九の市場

卯橋

平島

吾妻

浅井

馬見塚

言の本

猪河原

赤本

大赤見

小赤見

あね

西大浜

△是迄

和田猪佐

六の市場

三井重吉

喰尻

町屋

海神廻船

大地

佐中

天摩

一色

無代

志<sub>地</sub>池

橋栗

五响

本賀

赤巻子

言屋

小言屋

宮後

山尻

江島

下坂着

中坂

岩<sub>六</sub>文

北山名

南山名

△是迄

川井

大山

常中

岩倉

津中

八叙

井ノ上

常本

安良

大屋敷

△是迄

御供所

長橋

不埒

小口

河小

羽黒

前赤田

方角

栢丸

徳尾

栗栖

富岡

菅野中

塚地

今井

入系

安楽寺

富士

神尾屋田

二ノ宮

楽田

△是迄

修法寺

小島

小山

砂浜

尾名根

穂積橋本

石佛

芝原

カッ場

小折

言木

東大浜

尾崎

今多坊

石松

中長

山王

東中

栢<sub>森</sub>原

今中

高友

高木

下中

新田

水津

大山根

△是迄

南小島



北小湊 沢部 森本 浮城 柚木園<sup>五ノ</sup> 上奈良<sup>五ノ</sup>

下奈良 上水 急宮 晴之島 古知地 北野

中奈良 定水寺<sup>四ノ半</sup> △

從是村之支郷并家数方角及法

一岩倉村<sup>枝々</sup> 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 大市場村 ○上同 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 江市場村

○右口邑 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 津市場村 一石仏村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 長安村

一小折村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 市宮村 一樂田村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 内久保村

一右口村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 山<sup>ノ</sup>村 一取尾村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 成法村

一右口村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 郷村 一笠原村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 上切村

一樂田村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 勝部村 一北山名村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 小湊村

一右口村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 裏門村 一宮後村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 砂場村

一下地村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 口新田 一少地村<sup>ノ</sup> 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 新及子町<sup>ノ</sup>

一赤崎村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 南山村 一三井寺村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 東之井村

一入麻村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 清方新田 一右市場村 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 坂村

一右口 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 宗守新田 一上口 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 信方新田

一右口 村ノ支ノ方二丁四十丁 家数二十丁 三ノ北田

三  
内 九十九ノ年ノ内  
寺社ノ内  
千七十七石四斗三升五合  
千七十七石四斗三升五合  
寺社ノ内  
千七十七石四斗三升五合  
寺社ノ内  
千七十七石四斗三升五合  
寺社ノ内



高郡人物誌新編

織田信賢守佐安

高郡城  
吉野村

堀尾常房先主

初茂師後守常房  
吉野村

織田輝正左衛門

乐田村

生駒式部少輔

小折村

坂井右近

山口邑

山口八左衛門

山口村

織田和泉守

山口村

小坂勘六

前地村

小坂孫九郎雄吉前地村

岡本吉兵衛

吉野  
乐田村

表部解由

山口村

真地義人

山口

尾関石見守

尾関村  
志保尾関村(志保)  
志保(志保)

林宗兵衛

山口  
犬山村

溝口和紀

小折村

光賀三四郎

山口  
柚木村

片桐市正且元

今井村

悟溪和尚

臨海悟溪流(和志)上納村  
臨海寺(和志)山名村春

高郡古城

十三所  
其條(條下)一所

(浅地村  
古城)

秋浦五左衛門

(井上村  
古城)

城(石)符(松)子(高)吉(年)  
中(吉)松(主)水(正)住(井)上(村)  
蓋(け)城(跡)石(垣)古(跡)存(在)

(三井寺村)

尾藤源内

(小山村)

山口村(北)あり  
今(寺)地

(大赤見村)

織田平七

(時)吉村

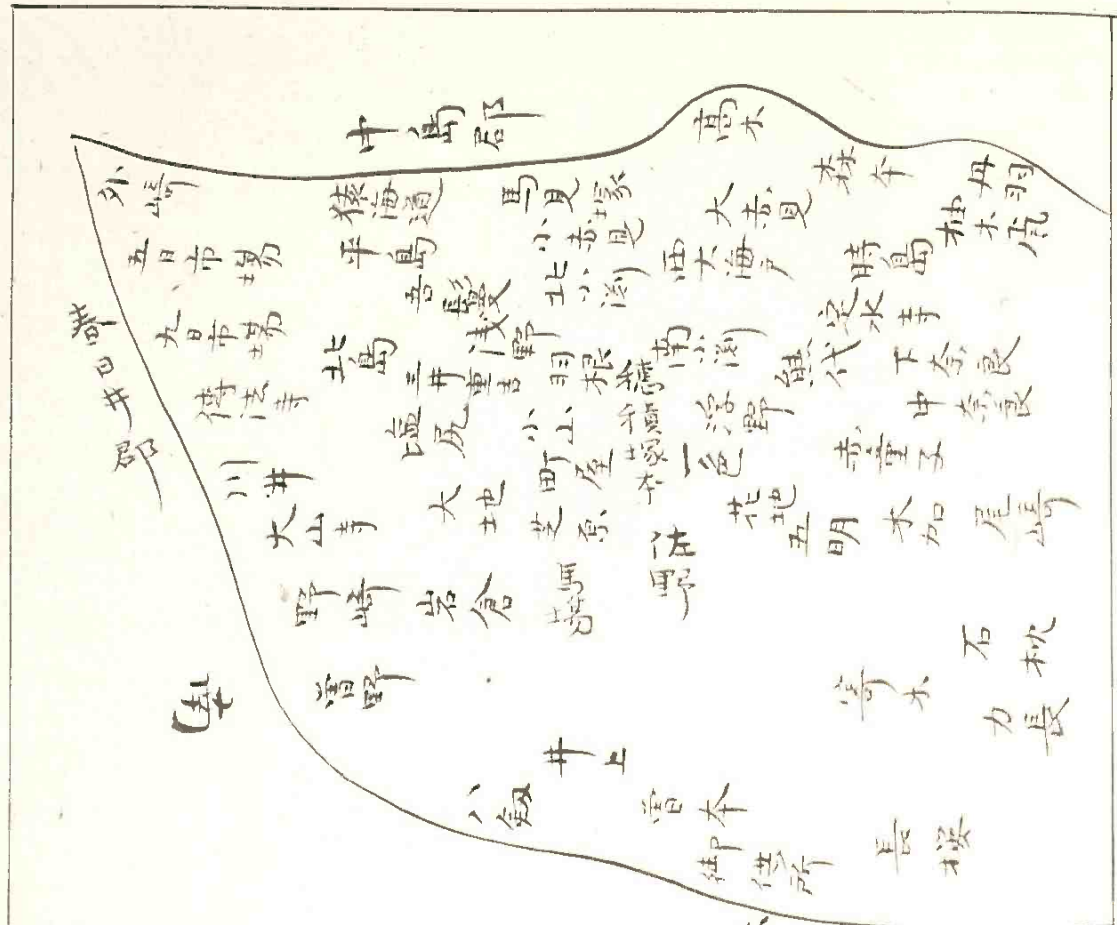
日根法印

(伊)供(所)村  
堀(尾)常(房)吉(久)  
父(修)理(右)傳(伯)父(修)理(吉)久  
高(郡)人

○高郡浅地村に付古跡を製する柵の尾字法に次ぐると今古書に及ぶ  
今それなり

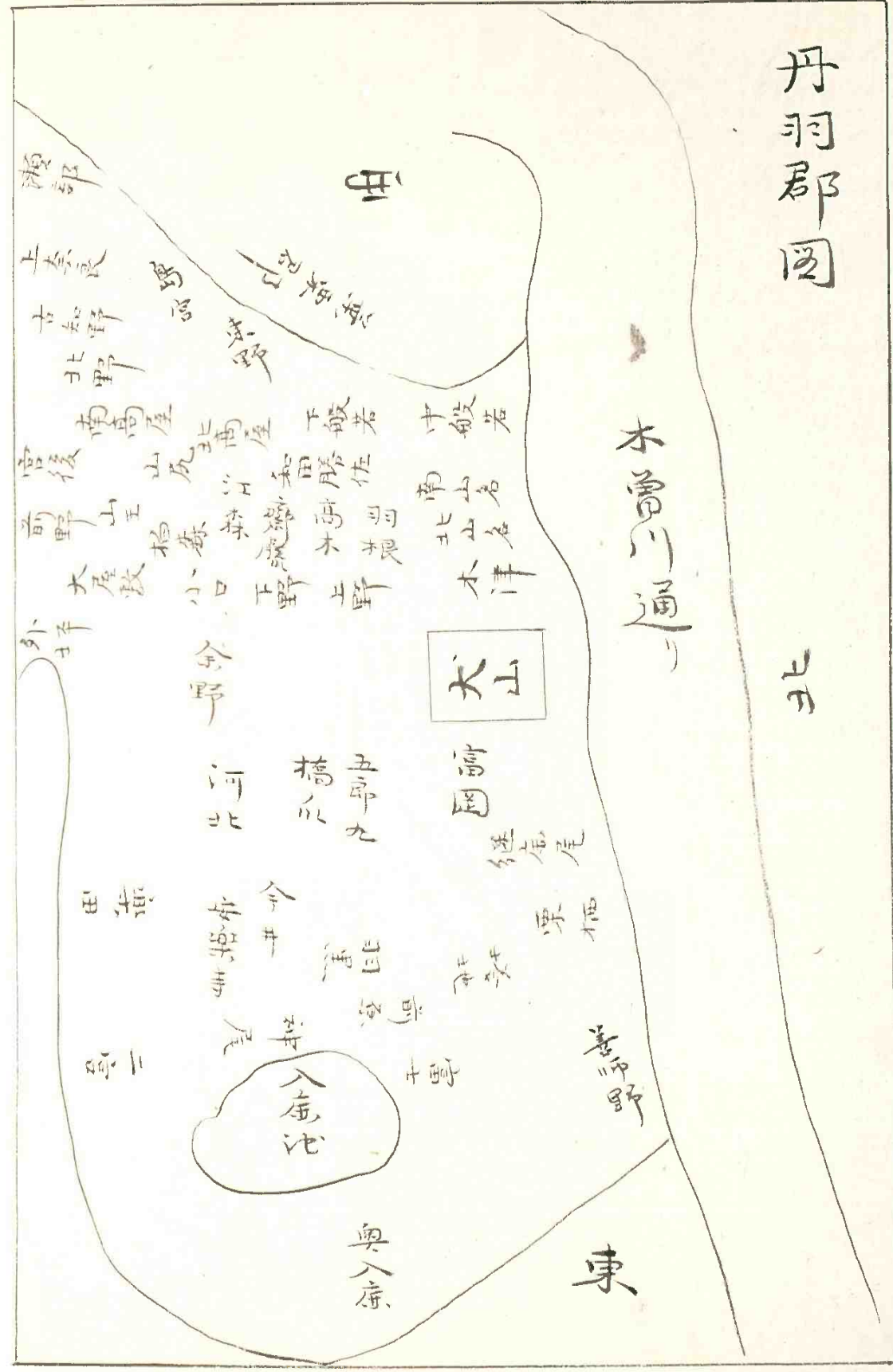
○日根法印村跡の名に和志と宣し付法寺村の跡を名する





當郡在春日井郡北  
 東中島二郡之東北  
 界歧模河東北之間隣  
 東美濃可見郡中  
 凡百十余邑云云

丹羽郡圖





稲木莊大山

神社集説云大山号  
起首大養孫

去名府北六里

柞木山ハ之の頃ハ法院の宮所領ニ平年中ハ南朝の宗良親  
王の所領ト名付テ天文十年同本衛の氏族斯波武元ハ柞木植法号  
始テ築之武元ニ滿植ハ武衛 昔日ハ三光寺山を本城トシテ今ハ天守の  
あるところハ白山権現立あり一中頃ニ白山宮を城東の丸山へ移  
シ其跡を本丸ト云レタト云々一ハ天守ニ寺あり一ハ今ニ寺と  
ある太田郡下遊去の後城ハ小倉系和泉吉次の時濃川兼山  
の古城を曳テ建造シ三光寺あり大石の懸橋を其時廣く  
有イニ石川傳あり移ス云々 女之三光寺ハ今ハ之の丸あり西北ハ赤  
金山鳥山兼山諸寺匡川 女之三光寺ハ今ハ之の丸あり西北ハ赤  
川系東ハ田細夫より東ハ隈系山丸山天王坂何ハ茂林山系ハ東邊  
飛騨保濃と云テ後々深山一里北ハ栗栖ハ岩岸ハ伊之少巡ハ言ハ守を

頂下ハ木多河岸ハ岩根をたテ水ハ流レテ平野一々  
浪聲ある時ハ其聲の如ク流レテ一々ハ流レテ一々ハ流レテ  
通流りあり南ハ平野一々ハ流レテ一々ハ流レテ一々ハ流レテ  
所ト云々あり

城主代々次序大略

イニ京都將軍家ハ的足利屋津守高常ハ中世以來妙法院宮領の年ありて永享の末  
斯波氏主維ハ家長衛田氏銘ハ新波元勲始而城を築ハ

- 織田遠江守廣近 延徳三年庚午年九月十四日卒ハ法号珍嶽常室堂主
- 織田大和守敏定 大山住ス後ハ新小口へ移リ石碑妙徳寺ニあり
- 織田伊勢守信安 或書伊勢 敏定男
- 織田左馬介敏信 法号常世後ハ伊勢守亦大和守ト云ヘリ
- 織田彈正忠信定 法号敏定男
- 織田

與次郎信康 法名叙叟自岩天文十六年濃河 ○織田十郎左衛門信清



法号哲宗宗得信長公姉塔遠江守ト云亦津田下野守トモ云

永禄元年犬山浪落永禄十一年ノ頃ヨリ甲列ノ寓居号哲宗ナリ

○拓大炊助

濃列郡上城主織田勘解由左衛門與安ノ六男云蕃允ノ養子

與一ナリ併或書ニ此拓氏ハ無シ信清ヨリ直ニ池田ナリトモ云ヘリ

○池田勝三郎信輝 後紀伊守ト云ヘリ法号勝入

始勝長後ニ信房ト云童名小坊ト云ク岩村城主秋山伯耆守晴

信房 近養子信玄ハモテ哲甲府ニあり天正九年甲列ヨリ歸リ犬山城

主翌年六月二日

○中川勘右衛門尉定成 織田信雄天正十年ヨリ尾

京本能寺ヲ討死

一説ニ天正十年ヨリ中川ヲ為城代当城ヲ守ルルニ十二年三月十一日勢列峯

ノ城搦兵トシテ定成執列ニ越ク途中ニテ池尻平在門尉ガ為ニ私ノ

宿意ニテ余ヲ落ス干時十三日池田勝入ハ大垣ヨリ犬山ニ兵ヲ發ス夜

ニ入鵜沼川ノ邊リニ陣シ其夜戌ノ刻ニ及ビテ勝入息男ノ諸勢共

ニ獵船廿艘ニ取乘リ犬山ノ城ニ責入ル勝入手勢モ後陣ニ次テ攻入ル城

中周章防戦ス城至勘在門ガ伯父ニ清藏主ト云ル禪僧防戦ヲ討

死其夜戌ノ刻犬山城陥ル時ニ勝入父子城ニ入テ凱哥ヲ唱フトヤヤ

イニ勝入ハ濃列大垣城ニあり一ガ秀吉ハ為忠節尾列ハ手ガヒ

入天正十二年犬山城ハ此節中川勘右門在城一けり勢列ヘ

番手ニ行歸路ニ私ノ意趣ニテ池尻ニ討ル此時を得テ池田ハ

昔ノ馴染エヘ町人ホヘ金銀ヲ與ヘ内通サセ三月十三日の宵の月

照リセシ曇リヨリヤハ腫夜に坂下水ノ手ヨリ勝入をびき入ル

無勢丸急子落城ノ十五日ニ勝入父子に稱葉伊豫守入道一鐵加リ

犬山城ニ移リ

○池田紀伊守信輝入道勝入 再城主の年四月

九日長久手陣ヲ討死

○加藤遠江守泰

初作内丞天正十二年五月ヨリ同年十月ニテ城主ヨリシモ亦長久手陣の

後番々持トシ不信雄の臣ヨリ文禄三年朝鮮国ヘ趣キ彼国ニ

病

卒

○武田五郎三郎清利 信雄の臣

○土方勘兵衛雄良 誓在城

信雄の臣後号雄久右武田五郎三郎ト西人天正十二年十月ヨリ

○武井藤

口十八年七月ニテ城代ヨリ信雄犬山領之内ヨリ

入道常岡 関白秀次ノ實父ヨリ俗名長尾武藏守吉房後ニ三位法

印寺玄坊一路ト云秀吉の姉尊亦イ説ニ妹尊モあり

尾列乙ノ子村百姓弥助吉房ヨリ天正十八年七月ヨリ文禄四年七月

ニテ秀次持ノ内住居亦云吉房ハ半年宛代リ任スト其後清洲ヘ移リ



秀次生害の後讀判ニ流サレ後年  
○三好岐阜宰相秀後 秀次

京六條にて病死ありと云  
○三輪出羽守 秀次  
○三輪五郎左工

門尉 秀次臣後ニ出羽守ト云共  
あり為城代居住ス  
○石川備前守光吉 木曾谷の代官  
兼勒之慶長五

年の乱テテ五ヶ年保而後京都ニ蟄居入道而法号宗休ト云又素林ト云ヘリ  
或書ニ慶長五年庚子八月木曾士馬場半左門尉山村甚兵衛尉千村平右

衛門尉を関東將軍家奉属野列小山ニ在リ右三士ト  
神君召而曰石川備

前守ハ則木曾谷の代官ト云今度の送徒ニ組スルヨリ其聞ハあり汝等  
速ニ本國ニ皈而石川を討伐セヨト云

木曾表の一戦謀を猶委余馬場  
而後馬場赴木曾時木曾谷の諸

士ニ從ニ神君賜ニ御朱印本多佐渡  
守大久保十兵衛尉是ヲ奉ルト云

○北條左衛門大夫氏勝 関ヶ原御陣  
の後暫内  
番手持

○松平左馬允忠頼 或説ニ氏勝忠頼慶長五年関ヶ原  
御陣後番手持但曰六年ノ春ト云

次 慶長六年ヨリ曰十二年三月ニテ  
居之法号音光院藏清法心禪定ト云

○平岩主計頭親吉 初名七之助法号  
平田院殿越翁休

岳大居士慶長十二年二月ヨリ曰十六年冬ニテ為城代舍弟平岩掃部吉範  
犬山ニ住居ニ執事慶長五庚午年親吉ニ為加恩賜ニ三万石則六万石ト云

甲州府中ニ在城の時ナリ曰十二年三月廿六日 敬公親吉ニ亦三万石  
賜加増都合九万石トナリテ 敬公ニ被属

尾州清須ノ城ヲ守ル代々唱御後見ト云  
○成瀬隼人正成 法号白林  
寺殿直指

宗心大居士慶長十七壬子年正月十九日城地拜領夫ヨリ代々  
慶長十七年ハ 犬山城拜領ト云

犬山城附領 高三千四百七十二石二斗五升ト云云  
内田村 余坂村 大本町村

犬山 中切村 木下村 此五ヶ邑を附合スル云云



○今迄所町号名目

枝町 美屋町 名栗町 上本町 下本町 中町

熊地町 務内町 練屋町 瀬谷町 寺内町 外町

中切町 新町 出来町 岡師町 上中町の  
名あり 村本町

北高 余坂 大布町 今ハとの  
町とす さつが屋敷 との町

ふ尔屋敷 ふ新長屋と云  
寺今より向例 馬場町 熊地町 宇屋西側  
にあり

中尾師町 白山堂山の  
西の町と云 西園師町 中尾師町 西園師町の  
東あり

そせん 藪 内田後場の  
南に藪の地

○町々惣圖交にあり略々別ニあり

○式内從一位針綱名神

岩田庄大山房  
名栗町鎮座 今称白山宮

拜殿 瑞垣 鳥井 額  
正一位白山権現 宝庫

神主 堀大隅守 正六位上

攝社十八座

西側東南南多北

○漆浦神社

○猿田彦社

○竹生島大明神社

○楠木御前社 俗民称  
子安神

○天王社

○般着神社

南向 ○御霊社

南向大社 ○愛宕社

○内宮 遥拜所

本社より東へ南向 ○壽福二神

惠比須神社  
大國主神社

南奥社 ○八幡宮

南向 ○熱田大神宮

南向東側北より南へ 春日大明神

○神明宮

○金神社

○稻荷神社



○御鳥大明神

○手置彦神社

社領 高十石

按舊史紀曰建稻種命迹波縣祖大荒田女子玉姬為妻生尾網根命云云姓氏錄曰若大養宿祢尾網根命後也云云大山名自大養之稱乎起下天孫本紀曰天香諾山命五世建筒草余男建多牟利命若大耳連祖下云云

每歲八月廿七日於宮試乐廿八日祭饗神樂幻序謠之  
近以昔行旅在道了大禮也

先拂

以上

足輕

足輕

足輕

足輕

指股

突捧

神字領人  
白張八

獅子持人  
字領一人

枝町  
桑屋町  
名邊町  
下本町  
中野町  
熊野町  
鶴飼町  
上本町  
鍛鍊屋町  
治屋町  
寺内町  
外町

笠 十 鉾 二 本

駕籠  
釣人

禰宣人  
 侍人 長刀 鑊 狹箱  
 神主 日傘 立傘  
 侍人 背持 白張人

枝町 車附 同勢 供人  
 枝町 車 惠比須 奥屋町 供人  
 枝町 同勢 供人

禰宣人 七枚板 三枚 持人  
 禰宣人 七枚板 四枚 持人  
 御幣 社家  
 神輿 白張人  
 人 持

半附 同勢  
 車 星下 梅下 奉町 奥屋町 供人  
 車 同勢 供人  
 車 同勢



○車  
輕業  
唐子端舞  
下本町

中町  
代  
供人

車附  
同執

○車  
西玉  
中町

中町  
代  
供人

警固大聖  
字領三十四人  
床机持七人

小聖  
中町  
十六人

旗  
持二人

町代  
上下着二人  
祢屋一人

○車  
外町  
七女星合

旗  
持二人

町代  
上下着二人  
祢屋一人

車附  
同執

外町  
代  
警固大江  
字領十人  
床机持七人  
金坂町

金坂町  
代  
供人

大黒車  
 新野 熊野  
 弓持三人  
 小母衣三人  
 守領三人  
 床尾持三人  
 新野 供人

守領人  
 敬園  
 内田町  
 寺内町  
 同執  
 常相丞  
 名栗町

大奉町  
 大聖三人  
 熊野 同執  
 守領六人  
 床尾持三人  
 大奉町 供人

寺内町  
 同執  
 敬園  
 寺内町  
 同執  
 常相丞  
 名栗町



鷺飼町  
供人

大母衣 大母衣 町代 同勢  
杖突十人  
床心持三人  
上本町 車附  
鷺飼町 供人

鷺飼町 供人  
内田町  
網渡 輕業  
少將  
鍛冶屋町 車附  
町代 同勢

福録寺  
○車  
上本町

鷺飼町 供人

△  
同勢

石橋獅子  
○車  
練屋町

○ 稻木神社  
田中天神

余坂町北側

拜殿

華表

額二両神

近世以新遷座ト云

○ 熊野権現社

熊野町

從古有之 明和四年舊宮再建方之

○下鎮守 福の宮 大縣宮 右社内三取十六歩前除 陽象子扣

○八幡宮 并白山寺依宮之所 所領の萱一所 願靈 神田五反云 慶長五年三月廿日小笠原和泉守吉次

○神明社 大本町

○浅間権現社 中切町

○天王社 田町

○藏王社 田町

○天満宮 外町

○大縣宮 尚所よりして舊跡に 務洞町

○愛宕社 京堂客長床坊末 直云山伏和列三輪 平等寺末

○秋葉宮 延命院 快教院

○(大本町)通北切西側 諸寺山路内境内不詳 清土西山流東山禪林寺末 日輪山常満寺 上人 塔頭二宇 定照院 平 林桃院

本尊三尊所 安所 安所 作

同山東安上人 永仁元年四月朔日 寛政四年三月 五百二年二十九

中興三十七世一空上人 俊嶺和尚

境内東向 觀音堂 作 尚觀喜きけ境内へ多地の 甲山眠卷上人 風山方和尚

尚山同奉正徳四年卯年 現任四十四代 乃ぶち説云 尚山 上人 天台宗の碩学 彦列の表之 伝列 学是す 如來告を 佛像を 如來告宣ふ 尾列 日輪の 現を 念仏の入り候 示現を 説り



吾後当所くふりい寺と建而改宗ありけるを觀寺の奥屋  
町に芝より方しと風山和尚当境内へ移れしと云

○大本町横糸山例  
境内不詳

浄土鎮西京知恩院末

一部山專念寺 上人

本尊三尊阿彌陀 安阿彌作

塔頭二宇 田光院

西例 真宗院

同山 称蓮社讚譽故念上人 大和尚

地藏堂 境内東向 淨首行基井作

鎮守 神明宮

用奉代由緒委しく傳説あり古へ大本町通り常滿寺  
と門並びて東向にありしを中頃今の如く表向と稱し同  
かゝるとありありある舊地と名し其地をせし傳説ありしと云  
○一舉東市子とけ寺に日を宣稱して此の寺を思へ昔行りしと云  
其の代りなく行りし人といふありやふしや

○(外町東側) 在り  
境内不知

禪臨京妙心寺末

了義山德授寺 平

本尊觀世音 丹溪作

塔頭二宇 竜雲菴 慶雲菴

同山 法謹禪師和尚

大永七丁亥年五月五日化  
寛政四年造三九  
二百六十七年三十一

中奥同山台岩和尚

○外町見付際西へ入る小路  
奥の方 在り 寺地不知

仁宗右徳授寺末

祥雲庵 平

本尊觀音 作不知

同祖 朴翁禪師

本山古へ徳授寺の塔あり  
同山の和尚臨所に在り  
とあるは建ちあつてその寺  
といふありける

同山悦堂紹怡後枝禪師

平治元年の頃遷化委不聞

中奥後峯榮良禪師

当方の庭をより西の方面へ移し、伴木山の地系、木谷川の流近くありて、きく二里あり、布を曳、如く一眼中に又、一と云、凡の奥、すまの、意色、等、舌に不及の地、持く、寺に絶を、

○外町西側徳授寺  
向合で、地不詳

禪黃磔宇治万福寺末

熊野山先聖寺

和尚

本尊觀世音

新仏

境内

天満宮

山上鎮座  
拜殿鳥居

中奥同山二世東洲賢山

振社四社

再中奥密傳穩大和尚

座禪堂 鐘樓

太靴堂

当方の地、熊野所、接取の在る地、一、名、府、竹、尾、所、に、お、願、也

門徒永正寺と、不、壊、寺、あり、一、を、延、宝、四、辰、年、刻、寺、と、し、て、か、く、如、く、再、奥、と、お、願、と、し、

○奥屋町東側  
寺地不知

日蓮宗京本法寺末

龍運山妙海寺

平

同山本山三世日澄上人。妙見神勸請祠

○妙見神の御神、毫の脊に、宝、函、と、安、坐、す、九、け、尊、像、ハ、成、法、布、復、臣、千、田、氏、の、御、刻、あり、今、も、い、く、し、子、孫、の、時、を、お、と、し、御、神、を、千、田、氏、私、宅、に、移、そ、千、田、ハ、千、葉、介、流、の、苗、裔、に、し、て、代、り、け、を、守、護、神、と、お、願、今、も、宗、と、あり、し、け、寺、と、建、立、し、て、これ、を、多、く、あり、

上列千葉、妙見寺と云、天台宗の寺あり  
寺傾ニ百石附て右き中を多あり

○同町妙海寺北隣  
右同断

日宗下総国中山妙法華經寺末

妙立山本光寺

平



正保元年十月廿二日寂

用山松樹院日用法師

此地は古に曹洞宗天竺寺と云ふに傳説の寺ありて  
寛永十七辰年日用坊再興を以て表す高代あり

○丸山内瑞泉寺南の方  
右同断

本光寺口同山

用山松樹院日用法師

元禄四年正月廿二日

中奥同山本地院日榮聖人

高き山竹古塚下の  
大如所大畧氏を以て  
にあり中奥之に川移して  
源を至とあり

境内  
口山上  
地藏堂  
天満宮  
七面宮

一翁山妙感寺

○寺内町  
西側  
東向

東門徒京六條末

本龍寺

本尊阿彌陀如来

同山

○同所  
北側  
西蓮寺西隣

口三列佐々木上宮寺末

圓明寺

本尊同

同山

口京六條直參

淨誓寺

○同所  
南側  
圓明寺向合

同山

○同所  
北側  
本尊同  
横南向

口口断

西蓮寺

本尊同

同山

○同所 横鶴飼屋所北側  
専念寺女先キ

日口断

願入寺

本尊阿彌陀如來 岡山

真言和列長谷山池坊末

青海山藥師寺 法印

○大山南部外ニ在リ  
境内四五步寺中救共  
除キ寺領高ノ外

塔頭寺 大宝坊平

本尊藥師如來作

境内 十王堂

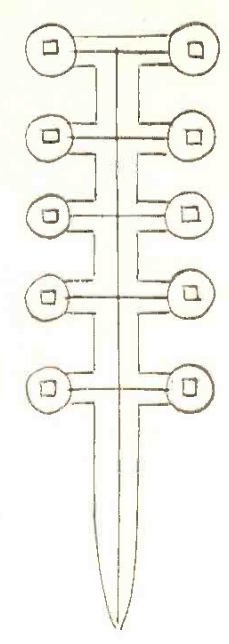
岡山行基菩薩

口 白山宮

寺領十七石三斗

富支院を發濟又長七年三月  
廿七日小室系和系守分記名ハ富支院ハ外  
亦年号ニ至七月四日志水甲斐守ハ大山  
富支院ハ外

大山系創ハ元年富支院ハ外  
系師トシテ湯作モ什物モナク其  
中ニ法ノ傳形アリ



如新形アリ又字ハ時代ノ  
頃モ法ノ傳ハアリ

○庚申堂 希栗町

○藥師堂 大平町 祥雲堂扣

○庚申堂 美屋町 延會院扣

○觀音堂 名栗町 常備寺扣

○大山の西ハ古川系ノ東大川  
堤に古木ノ榎一株アリ



○内田渡

元四十四石三斗五合

内田船頭給

是ハ伊奈備前守彦坂九兵衛吉人の渡文なり

内 大石五斗六升 大山村内  
寸石五斗四升五合 東渡井村内

街及往きるをみ渡りぬあり 瑞泉寺前より城山の邊へ

○鶏飼屋渡

伊木山へ越え渡り元より往來街をみ渡りぬ  
登りしちむりりて著らりておの通渡あり

○犬山城表より尾山と木曾川端

伊木山 伊木山山頂あり城の西の方 伊木の瀬 川通 城下 の瀬口所

赤岩 城下川中 瑞泉寺 川中 城山の瀬 是ハ犬山城の城川向

七ツ階子 川の左り 大戻り 口所 祢宜 洞 口所

千巻 千貫巻 城下大川

○相摸守家久

犬山の名源は其子孫知年と記述して  
其業より不ぬあり其後に如言なり其子孫を承く其業より  
のありぬもい名ある者の子孫は其業より其子孫を承く其業より  
一版とよし其業より其業より其業より其業より其業より其業より  
二月為年して家久の子孫絶けり

○勘五郎火

犬山長民流の者日暮り帝といふ百姓のあり流  
の業を誰とせしむるあり其業より其業より其業より其業より  
投入し其業より其業より其業より其業より其業より其業より  
けむり通る國村の前より其業より其業より其業より其業より  
行ゆり其業より其業より其業より其業より其業より其業より  
やむあり其業より其業より其業より其業より其業より其業より  
ト親者職法を修し供養をせしけり夫より其業より其業より  
年あり其業より其業より其業より其業より其業より其業より



○夫木集を記すに  
 山海より後部の里に多し其ていふつゝき遠衣のれ  
 宗良親王の御孫を大山より口玉急多の郡の河津の地に  
 河渡夫より昔ののを名にうつらせもふ所の事こととすとすとす  
 伝列本名流ふどよりけりにゆるふ大山の河津ありとすすと

○大府東在內田川上境知  
 四十一町六反一畝八歩寺中  
 山林寺領高ノ外

禪臨濟妙心寺派田舎寺

青龍山瑞泉寺

- 豊川 瑞陽
- 時芳
- 童泉院
- 臨溪院
- 臥童菴
- 輝東菴
- 妙喜菴
- 童濟菴
- 黄梅院
- 南苔菴

本尊

○塔本慶四宇寺家四塔  
 四院六則本菴として役者と  
 号し公用と系は是本山  
 妙心寺の例にして不習田舎  
 本寺より有し

岡山無圓宗因和尚

應永十七年六月四日歿

嗣法塔授翁宗彌無圓の  
 妙心寺退藏院の住侶而  
 尾列の俗姓平氏菴尾の  
 氏族

二世 宗舜日峯和尚

嗣法宗因和尚後妙心寺の  
 塔頭養源院住京師峯  
 越の人姓藤原氏謚大流禪  
 師当山開基草創の人

尚六右日峯和尚應永二十二年乙未建刹して其師無圓宗因  
 共為兩岡山岡山派田舎本山より

大山本郷内并門前山林竹林

寺領五十四石三斗七升八合

諸役免除也

文禄五年四月廿二日系乃吉公大山  
 本々内五石 慶長六年七月九日  
 忠吉卿 伊奈備前守檢地狀有之  
 元和七年六月廿二日  
 以来御代より黒印頂戴



天文九年 十月三年 定成信房の刻也

成瀬の親候制し名判毎

禁制

瑞泉寺十境

一 教舎

太白峯

萬松関

一 伐採山林竹木

西江水

十八灘

一 公事所仕

石頭城

宿龍池

大條の望を停止訖遠紀  
の筆の致を嚴科考也

靈龜廟

昆明池

寛文七年三月十七日

扣玄堂

雲夢澤

名判の毎に云へたるに成瀬年人  
判とあり一石ありしと云ふ事  
ありては事ゆはのち候也

萬松関各磐野

○ 當古境百里山崎申御言藤房の誓同様の比し云傳

或書と云ふに一説を求む

下り山崎申御言藤房の誓同様の比し云傳  
て後にぬ心丹二世按察宗彌と云ふにけり  
ぬ心丹の於てぬ心丹を同義と云ふにけり  
と證を紹ふ申候所脚のおり母の玉と云ふ  
に其後客のりくるとり口凡や庭の松と云ふ  
りへの候家を去り

三平の里中御言藤房の誓同様の比し云傳  
世のしを余はに三平の誓と云ふにけり  
思月新山領の友

濃別伊岐津志村久昌の説に新安の誓藤房の  
誓と云ふにけり然れども按察宗彌の誓と云ふ  
るに多し云はるにけり和合の誓と云ふにけり  
名ありて是にのて疑を解く白石の説に合く  
送る事あり

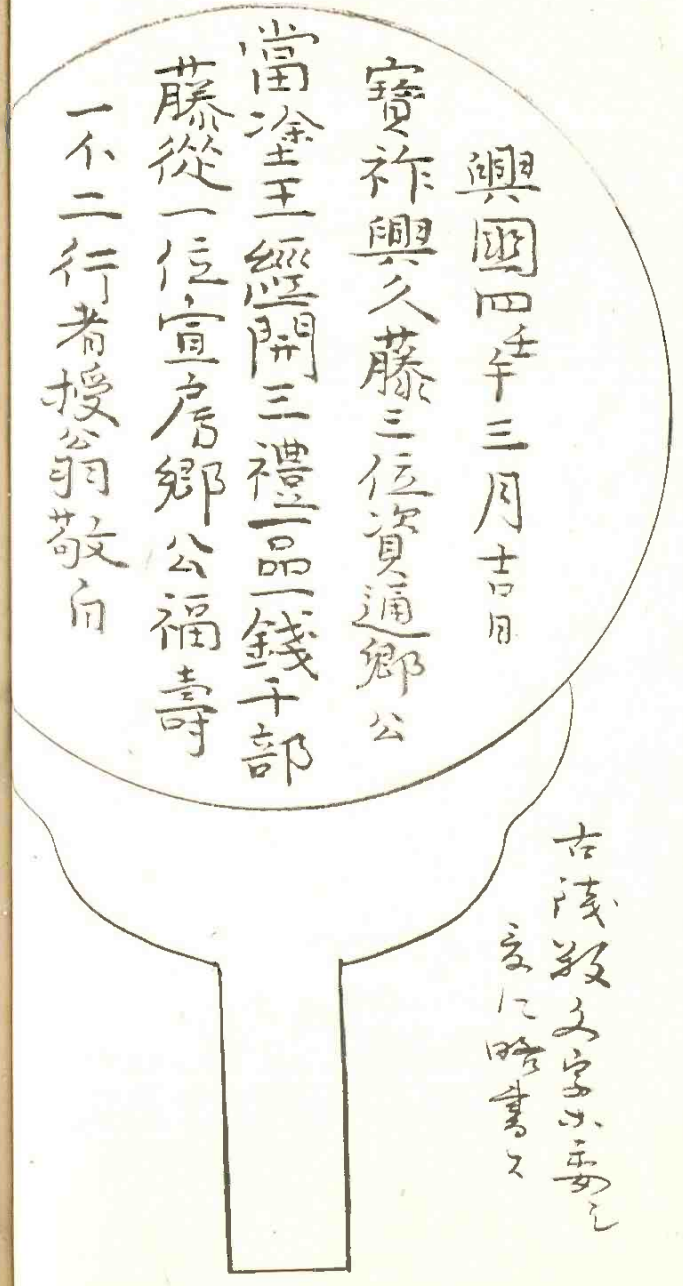


興國四年三月吉日  
 寶祚興久藤三位資通郷公  
 當塗王經開三禮一品錢千部  
 藤從一位宣房郷公福壽  
 一不二行者授翁敬白

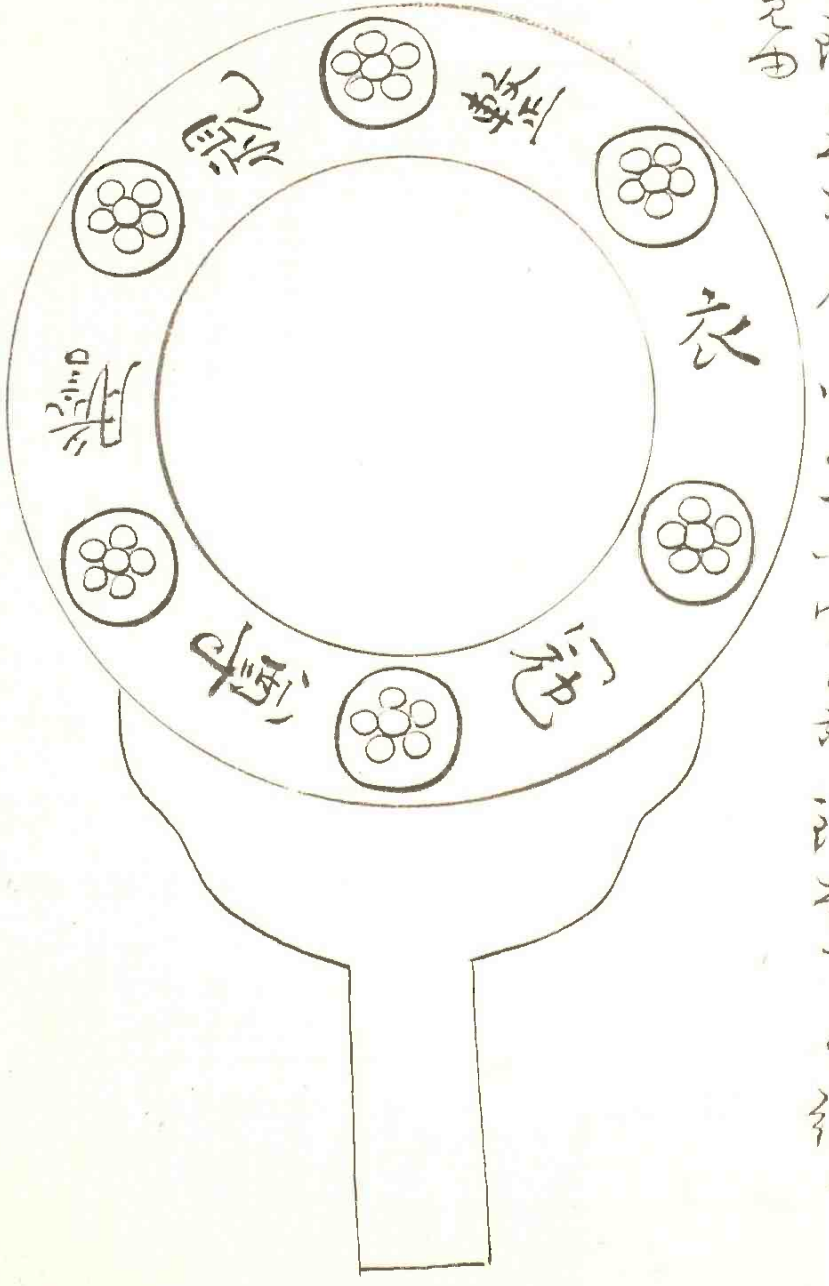
鏡面

興國四年三月吉日

古鏡敦文字の事  
 後に略書ス



鏡の裏とある言は鏡の面をさへん中の一室室の所鏡面と縁の  
 縁の縁にけり多  
 鏡の裏とある言は鏡の面をさへん中の一室室の所鏡面と縁の  
 縁の縁にけり多  
 鏡の裏とある言は鏡の面をさへん中の一室室の所鏡面と縁の  
 縁の縁にけり多



古鏡の一品錢千部の字に據る一室の物りと思はる字は鏡の  
 但亦古鏡の字に據る一室の物りと思はる字は鏡の  
 古鏡の字に據る一室の物りと思はる字は鏡の  
 古鏡の字に據る一室の物りと思はる字は鏡の  
 古鏡の字に據る一室の物りと思はる字は鏡の



奥国四山別康永元年ニ造リ以和子平ニ因リ其年ニ造リ

真言名所大須堂生後末

繼鹿尾山寂光院 法印

号八葉蓮華堂寺

○ 繼鹿尾村大城去廿町一境内  
山林東西廿四町南廿町修云

觀音堂 (山上あり) 本列  
三十三番月順礼所

護摩堂本尊 觀世音 宗祖弘法大師并同山二世木像  
此堂内安置ス

同山道昭和尚 文武四年庚子三月朔日寂  
慶長十三年三月朔日遷化

中興二世慶源法印

○ 石佛不動 石像若し  
殊勝ノ尊像

○ 辨財天 山上觀音寺  
社後ノ方

○ 三十三所觀音 石仏近代  
造ニ至

○ 龍登松 きりぎりすの松と  
傳ふあり

寺産十九石六并三合

寺河云々の説又々年号あり丹ぬ  
り布瓦のりもあつて市多は寺の  
中田の即亮縁家トあり  
永禄八年九月位も公古願の縁又  
美意三年午申に捨地のあり此  
言は之石六并三合大山上るも如ト云

山小千の薩埵の吳嶺として付古京中々乃の建創に  
して及昭和尚依勅詔号白多小中宮寺と云く説書大士  
号坊中像以意熱田社秘且源を夫の中再再の吳説  
云あり 之山寺 昔々老々中々 昔々老々山自  
河原像安置改不從鹿尾山八葉蓮華堂寺寂光院と云く説  
一息門一吳坊と云  
式記云白雜寺中同差と云 宣徳四年と云 宣徳四年と云  
見たり人の地に大なる寺大の如く赤く光り 物南方熱田  
の方より来り 言くは不來眼のありに光り来り 本寺と







○(管師地村境内) 三反分 佐奈除

本尊

岡山

○(右門村境内) 三反分 前除地

本尊

岡山

禪臨太山隠系末

徳雲山禪堂寺

○(管内) 愛宕社

石川 佐奈 寺除地 浄土

右のり末

朱白山陽徳寺

○(管内) 熊野三社

○大日堂

○(管師地村) 境内不詳

禪臨太山隠系末

瑞龍山福昌寺

○(管師地村) 清水のり末 古内八反分 前除地

禪臨海岐阜瑞堂寺末

護應山清水寺

本尊 馬頭観音

慈惠大師 本仏を依

本列三十三観音の内 二反分の浄土

岡山

二天

高古の徳寺田村お軍の岡系末の地心つけ所を清水のり末のり末にて古縁佐奈清水の観音とふし境内田村九塚あり

田村九塚記考考東：南向：あり石碑の流左の如し

左 弘仁辛卯五月廿三日夢

石ノ裏

正面 正一位圓光院殿大相國公

至享保六廿歳九百爾時  
現住宗諱野衲造主三

右 尾列清水田基田村將軍

大清ありちハ昔呼ば老々ハ七所けり小江流止の七橋あり其れ  
橋邊に清ありちと記す橋本あり右ハ川を修むふら下り  
山ハ禁に寺あり山道に下り家あり系にあり一とせ  
け色ハ覺のきり不ぬしとてけ色を迷ひ清あり其れ  
山を修む能尾山にあり是又清とて尋ず清あり  
け所ハ山道の地如し橋あり清あり橋と云けけあり風味  
けけハド多あり  
けけハ計の定古くハい修む其れ初修むありとて修む能  
尾の修む其れ其れ修むの字にけりて修むあり  
修むに山城の言雄山ハ修むの尾に似る山ありけり  
まぬい其れ所其れ尾と云けけ山岡の所を修む山の流に對し

てこそ山の尾とハ云すこ橋を修むけり尾に地ありんかどめりる  
かこそ考す

榎尾 トガノヲ 榎尾とけりト云す 榎尾 ツカヤミキヤ 高尾 タカヲ 出清の

松尾 ミツノヲ 松多き 水尾 ミヅノヲ 川近所 平尾 ヒラノヲ 河尾 カハノヲ 池尾 イヘノヲ 牛尾 ウシノヲ

等の名山城ふ一列のちこさきよりとて地形を考見古きを  
て所をの流をけり事あり

○式内 從三位出鹿天神 在前原村當社山林東西二百八十二間  
南北二百八十三間ト云す

拜殿 瑞籬 樓門 鳥表 妙理大権現の  
額あり 小社

同山堂 別當 天台野田密藏院主 入鹿山白雲寺 法印

客殿本尊 開山



尚社を令修民号天乃宮從往石出原庄入麻村に修修曆代  
爲一室永十一甲成年用池造沼池の是氏と共計所  
前系新田へ移さる尚社爲(辨)子甲子爲より主易地之  
桑入麻天乃宮山林の智地あり外其乃奉以江坂屋敷の  
谷口安なるホ致公序意を象り境を定てあ後中り

○富士山(小)庄富士村あり 山形 髣髴 蓬萊名山  
里俗尾張富士と云

山頂祭神祠不詳 富士浅間ト云 本宮山廻り三十一山高土町五月晦日夜  
百八燈六月朔日登禮

山内攝社

- 天照大神宮 熊野権現 伊豆権現 白山権現
- 日吉山王社 鹿島明神 三島明神 箱根権現
- 大宮権現 大日堂 西部金剛界 胎藏界

○惣社僧ハ大山表  
藥師寺ナリト云

別當

真言大山某師云々  
長榮山富光寺平

尚富士山又ハ本宮山ある山ハ  
後長富士山ハハある山ハ  
| たる山ハ背言早ハ

和列宇多郡 菩提山大坊先達云々  
濃州武蔵郡 崇山地蔵院云々  
吉祥院

宝藏院  
泉正院

江列湖ありより古を言ふて  
け新をあるけしハハ  
立あり一室の古けある山ハ  
ありと云る本宮山ハある宮を記請しあるを記しけ富士山ハ  
系りあり山伏多しきて尚山の別あり中ホ云記し山内の  
寺法をありけ古に不詳ある寺あり左松山十三所余社後の  
大嚴院ハハある山ハ系方天池 入山池 登池とあり左山の概  
雨池三ヶ所 系方天池 入山池 登池とあり左山の概  
また死を修修公義より考へし







或云二の宮大縣古の御山の中腹にあつて西向し本宮山  
 とい谷を隔て西のすし八月朔り多あり社人多し社傳  
 昔の六塔ありしが今ハ其塔あり社傳あり社傳あり  
 縁の利益あるべしといふ事殊に而を乞に利をありし事  
 早懸し多あり社傳昔苗既にそんとし其の縁の事  
 多あり方縁の事傳言傳に傳するを祈らるる事  
 牛馬の事いこがる如く其の縁の事大縣官あり屋津  
 大縣官ありの事あり社傳其の縁の事大縣官あり屋津  
 奉覽ありし各後奉一にし縁の事大縣官あり屋津  
 天より下まあり社傳其の縁の事大縣官あり屋津  
 社傳縁上の事あり社傳其の縁の事大縣官あり屋津  
 の事ありし縁の事大縣官あり屋津  
 示社傳其の縁の事大縣官あり屋津  
 天より下まあり社傳其の縁の事大縣官あり屋津  
 と縁上の事あり社傳其の縁の事大縣官あり屋津  
 られは云古縁の事大縣官あり屋津

社領二百斛

延享二年伊加増の時  
 伊加増下ふ不越茶子ノ  
 口の内折ノ内山林竹不  
 社人石共  
 元和八年伊加増あり  
 社領中  
 元禄七年伊加増あり  
 社領中倍とあり

元禄六年七月日信重

天正十八月廿七日信重 在押高田細三及ト石發此一折  
 無年号卯月廿五日定制 石井左衛門尉忠次  
 八月廿三日亦一通 沖内左衛門忠武  
 十月四日又一通 お袋左衛門尉秀政  
 元禄八年二月十五日 教公百二十石  
 寛文元年九月廿日 伊加増朱布社文一通  
 東照宮ノ事

高二百石ノ内

元禄八年二月十五日  
 元禄七年三月二日  
 元禄六年三月二日  
 元禄五年三月二日  
 元禄四年三月二日  
 元禄三年三月二日  
 元禄二年三月二日  
 元禄元年三月二日  
 寛文元年三月二日  
 寛文二年三月二日  
 寛文三年三月二日  
 寛文四年三月二日  
 寛文五年三月二日  
 寛文六年三月二日  
 寛文七年三月二日  
 寛文八年三月二日  
 寛文九年三月二日  
 寛文十年三月二日  
 寛文十一年三月二日  
 寛文十二年三月二日  
 寛文十三年三月二日  
 寛文十四年三月二日  
 寛文十五年三月二日  
 寛文十六年三月二日  
 寛文十七年三月二日  
 寛文十八年三月二日  
 寛文十九年三月二日  
 寛文二十年三月二日  
 寛文二十一年三月二日  
 寛文二十二年三月二日  
 寛文二十三年三月二日  
 寛文二十四年三月二日  
 寛文二十五年三月二日  
 寛文二十六年三月二日  
 寛文二十七年三月二日  
 寛文二十八年三月二日  
 寛文二十九年三月二日  
 寛文三十年三月二日  
 寛文三十一年三月二日  
 寛文三十二年三月二日  
 寛文三十三年三月二日  
 寛文三十四年三月二日  
 寛文三十五年三月二日  
 寛文三十六年三月二日  
 寛文三十七年三月二日  
 寛文三十八年三月二日  
 寛文三十九年三月二日  
 寛文四十年三月二日  
 寛文四十一年三月二日  
 寛文四十二年三月二日  
 寛文四十三年三月二日  
 寛文四十四年三月二日  
 寛文四十五年三月二日  
 寛文四十六年三月二日  
 寛文四十七年三月二日  
 寛文四十八年三月二日  
 寛文四十九年三月二日  
 寛文五十年三月二日  
 寛文五十一年三月二日  
 寛文五十二年三月二日  
 寛文五十三年三月二日  
 寛文五十四年三月二日  
 寛文五十五年三月二日  
 寛文五十六年三月二日  
 寛文五十七年三月二日  
 寛文五十八年三月二日  
 寛文五十九年三月二日  
 寛文六十年三月二日  
 寛文六十一年三月二日  
 寛文六十二年三月二日  
 寛文六十三年三月二日  
 寛文六十四年三月二日  
 寛文六十五年三月二日  
 寛文六十六年三月二日  
 寛文六十七年三月二日  
 寛文六十八年三月二日  
 寛文六十九年三月二日  
 寛文七十年三月二日  
 寛文七十一年三月二日  
 寛文七十二年三月二日  
 寛文七十三年三月二日  
 寛文七十四年三月二日  
 寛文七十五年三月二日  
 寛文七十六年三月二日  
 寛文七十七年三月二日  
 寛文七十八年三月二日  
 寛文七十九年三月二日  
 寛文八十年三月二日  
 寛文八十一年三月二日  
 寛文八十二年三月二日  
 寛文八十三年三月二日  
 寛文八十四年三月二日  
 寛文八十五年三月二日  
 寛文八十六年三月二日  
 寛文八十七年三月二日  
 寛文八十八年三月二日  
 寛文八十九年三月二日  
 寛文九十年三月二日  
 寛文九十一年三月二日  
 寛文九十二年三月二日  
 寛文九十三年三月二日  
 寛文九十四年三月二日  
 寛文九十五年三月二日  
 寛文九十六年三月二日  
 寛文九十七年三月二日  
 寛文九十八年三月二日  
 寛文九十九年三月二日  
 寛文百年三月二日



言五石

系礼料

言五石 系礼料 改定

上戸主人  
中戸主人  
其外

言廿二斗二合

修理料

言八石

御借料

言五石

系礼料

言三石

燈明料

言七斗五升六分

元安ノ左夫

言廿石

神主順

言七斗五升六分

元方ノ左夫

言七斗三升六分

成時左夫

言七斗六升五合

常吉市左夫

言八斗三升六分

福吉左夫

言七斗一升八分

有友縫ノ左夫

言六斗八升

吉光吉左夫

言四斗八升二分

元松平左夫

言四斗八升六分

吉里左夫

言二斗三升六分

以地

言二斗三升

老清左夫

言三斗四升六分

廣光十左夫

言五斗七升七分

南守左夫

言四斗四分

程廣左夫

言三斗五升四分

北守左夫

言三斗六升三分

宮定使左夫

言一斗九升六分

吉廣一左夫

言八斗六升

渡後左夫

言二斗五升九分

溝口左夫

言三斗五升八分

下吉長左夫

言九斗八升六分

下吉左夫

言九斗八升六分

下吉左夫

言八斗七升七分

下吉左夫

言一斗四升三升六分

下吉左夫

言九斗八升六分

下吉左夫

言九斗八升六分

下吉左夫

言一斗三升八分

下吉左夫

言一斗八升四分

真長左夫

言九斗八升六分

下吉左夫

言二斗五升六分

下吉左夫

言五斗七升七分

下吉左夫

系礼八月朔日

車一輛  
山二輛

内吉輛 田圃の地

二宮大縣神社神主畧系

重松氏 家紋丸ノ内

其外 田圃の地 畧系 重松氏 家紋丸ノ内 田圃の地 畧系 重松氏 家紋丸ノ内



品秀益

重松兵庫助  
應永ノ頃ノ人

秀満

次郎大夫  
永亨ノ頃

秀村

中務丞文明ノ頃  
神主属斯波義隆  
武吉ヲ専ラ勤ム

永乃永

神主右京進  
九十八ノ

秀春

神主喜三郎  
八十九ノ

正平

授津中琴少輔始仕織田  
彈正左門後仕池田家今  
子孫彼ニ在リトヤ

秀富

有藤表方ノ仕  
坂井右近

女子

倉地兵庫助室  
落合右近將監

正時

庄五郎

勝正

春日井郡上末村城主

成正

榎津左衛門卜之始ハ仕織田信雄卿後復禰職成時ノ家相統  
ノ祖ナリ

正行

榎津與三兵衛仕中川勘左門尉

秀久

神主筑後八十三万  
母ハ松浦勘十郎女

秀久始ハ称久七郎

敬公国勢ノ御時賜位袍令称筑後  
光女公増進神領地且賜位袍

長治

佐橋左門奉仕  
子代姫君

長光

佐橋理左門奉仕  
尾君

信之

佐藤金右門

吉信

佐橋九郎兵衛

秀周

神主正六位上織部正  
八十三万母ハ佐橋安右門女

編秀

神主織部

英利

神主主馬  
母細野四郎兵衛女

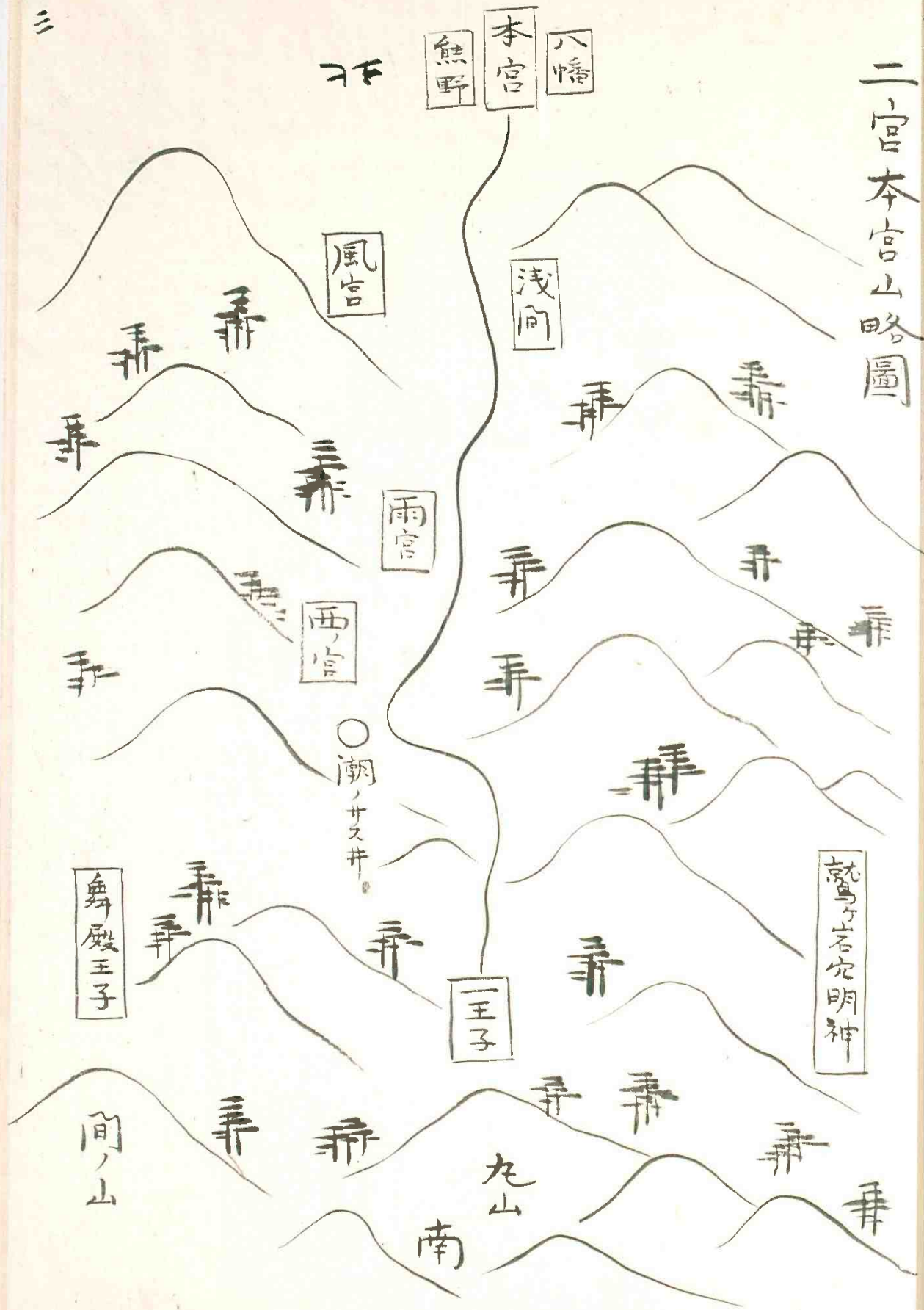
英安

平岩十郎

秀高

有藤縫殿之助

寺松氏系ニ家系ニ或ハ揚々稱シ亦ハ系ニ稱シ按ニ蓋屋氏也  
庶流歟四條院曆仁元年十二月屋傳云請社中領



二宮本宮山略圖

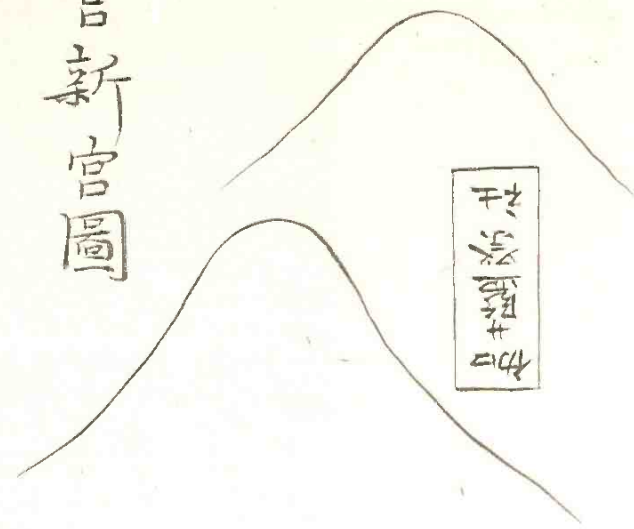
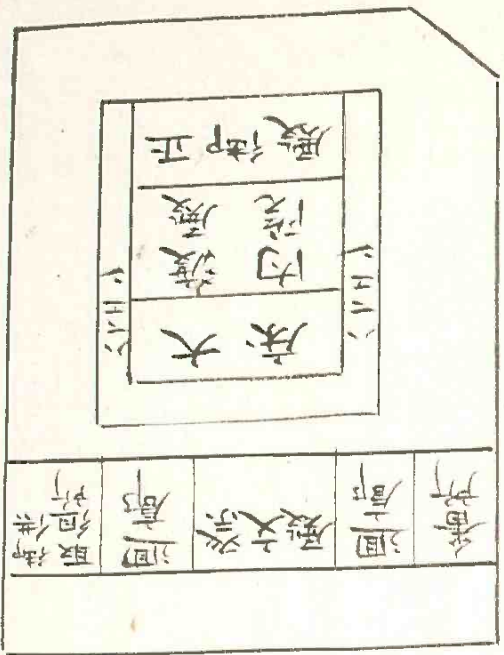
應宣のむびの二年に二月のりし文ニ  
 中倉郡のむら 曰左衛門尉  
 尾張俊村 保三十七所 古所大ト云々  
 亦元禄十五年三月古瓦をき松氏の前  
 の田圃を垣也  
 是に尾張山寸の四字を記したる  
 山十八共此古所は  
 先祖の名に  
 やけ多とらつて考ふるに  
 元禄五年に  
 尾張山寸の  
 姓を録す  
 倭建尊三世孫大荒田  
 今云々 姓氏録曰  
 大縣の令ト云々  
 古所云々 尾張山寸二宮ハ  
 の姓アミあり  
 其三世の  
 奉祀社熱河  
 其三世の  
 社孫流進の社  
 あり  
 氏をりつて  
 氏をりつて  
 氏をりつて  
 氏をりつて

二宮古瓦ノ圖





二宮新宮圖



明

拜殿 勅使殿

所供御

神樂殿

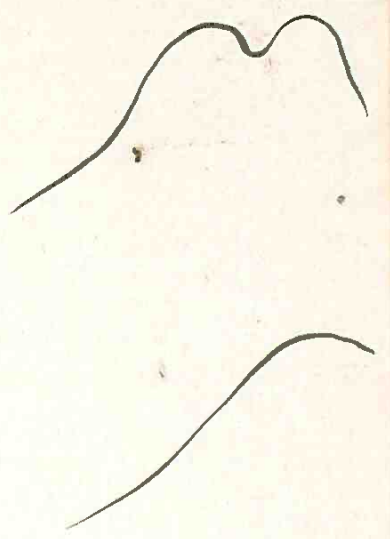
神社寺

大黒殿

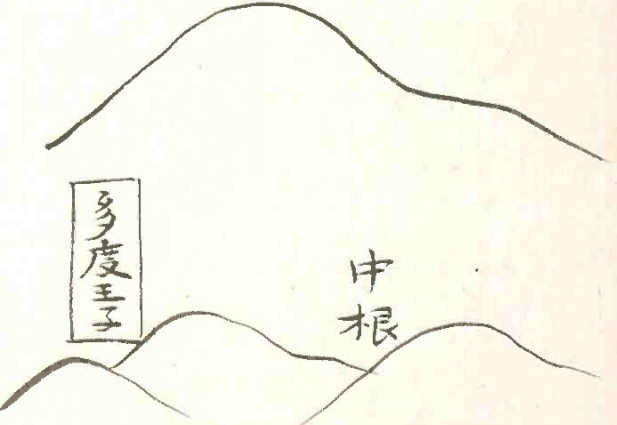
神社

一 万治二三年五月二ノ宮  
 冷上從社古今と云々  
 上方而造る信を以て  
 比今と西向に造るに社家申許後と南向に造る  
 或云は宮の御物桔梗に桔梗鏡矢子に其流に稻をそに  
 祓宜吉凶を有て亥子に取見 所宮ヲ亥子の方一ノ移之  
 奉る南向に建る也 齋易奉り候也  
 一 尚別々二ノ宮と云々其の古用は弱多し候毎に六七月あるに  
 不復細よりしと捕へに仕合と云ふ所是と云得る事あり  
 是二ノ宮の事  
 婦人より云ふあり

高社



濃列小木村 高社 遠拜所

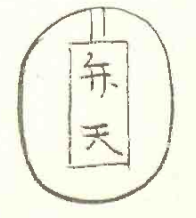
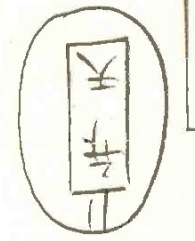


天王社ハ二宮攝社ノ内  
ニシテ祭礼毎歳八月  
八日馬ノ塔ニ足出シテ  
神前ノ引渡スヤ

沖之巻の宅の地を小計と云々  
亦巻の敷地あるらん

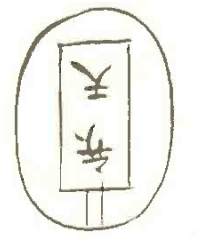
○梅慶草  
二宮本宮山麓ケ洞ニ  
アリワシガ根ノ所長キ

若宮  
天道  
多勢  
中宮



四辨財天ト云

勢使殿ニシテ四三何



門今

二ノ宮東方の上丘に西福寺 淨福寺 真藏寺 不郎寺  
小西寺と云ふは 沖之巻の地を小計と云々 大縣宮の地  
前ノ地ニ通リ 小計と云ふ地 邦使齋飯の地あり 沖之巻  
宅地ニ通リ 沖之巻 夫々西に二の巻の地あり 沖之巻  
沖之巻の地あり 夫々西に二の巻の地あり 沖之巻  
復まて五丁斗是近四至の内と云々 一の巻の地あり  
巻塚にあり 沖之巻の地あり 沖之巻の地あり 沖之巻  
沖之巻の地あり 沖之巻の地あり 沖之巻の地あり 沖之巻  
直舍田 沖之巻の地あり 沖之巻の地あり 沖之巻の地あり  
沖之巻の地あり 沖之巻の地あり 沖之巻の地あり 沖之巻  
今此後其長る山と云ふ小西山と云ふ今云小西寺の地と云



○(二)宮社僧大宮へ行  
右側

真之濃列金山清三寺

小西山真長寺 平

正觀世音堂

弘法大師作  
西向

同山不詳

從古此傳々々意地といふ久しく追物して小西山の号  
中絶の事 致公所代々の如く再興ありて古へに  
さへ存するハ之を三郎の内の三十一番の札所と  
昔の事  
小吉梅の小梅のありて其の樹りハ庭を  
地心

○入鹿杖

在柳庄一本虫入鹿神尾新田  
大池南西堤あり(入鹿ヲ往古書  
由鹿トイヘリ)

杖寺

林 甘藤 在門

入鹿池田り及法二里廿五町

内百四町山ナリ但東山際ハ川内  
堤西山岸迄ノ覺書シ

水高六向半六月七月以後五町  
あり坪百九拾五万七千八百三十六坪

地ニ榎長十八向 言四尺 中貳向

立榎長十五向 但ニ蓋板とて戸あり十八向 言四尺  
中一丈三尺

杖長五十四向 中一丈三尺  
堤長四十向 道言十町

杖戸數十三本 但戸中 言あり  
六向三尺の多言とて堤あり三町四尺法十七向

河内堤根後七十四向 あり十四向之尺馬踏之向  
西山より長言と九十九町あり法言十八町 但四寸五分

指石長五十四町 中十三町 後二丈五分  
入鹿池高五百四十三丈五斗六升を合 入鹿村池あり  
此地

高千七百五石七斗九升 入鹿新田北分所 丹波郡  
高五千八十一石五斗六升 入鹿新田五十町所 春日郡





○氏神天神 熊野神社  
白山神社

今井村 赤豆の村 中地郷土

拜殿 鳥井

祭礼八月廿五日馬ノ頭三足  
村中より神楽ありしる

○樂田村 前より云右方左方言樂田領し下

○古城址 在樂田村寅卯方九十歩一郭内東西  
四十歩南北五十四歩在四方二重崖

曾而後田彈正丸の跡を其後松井右近より伝天正二  
年小牧陣より秀吉殿下り示努く屯し上云長久手  
記ホ、所謂。浦の門樂田村のちし伝雄言の岩ありし  
地之小牧の後に池田のよへあり小牧仕家せのめ太岡是に  
本陣と云ふなり久記太岡記ホに本陣樂田とありし  
浦の門之創浦の門より今云城址のすち

○内久保 樂田村のちし田地大く、沼し小牧陣の跡に枡井を  
切込掛けしより今も枡井田の片より枡木あるすのあり

○青塚 小牧陣の跡太岡より糟を多め茶臼の飛大塚を  
築き其を伏せ跡地を仕敷しり是を今青塚とす  
り昔いけさに家ありしと云ふ事因りて家ありし  
しる定文の頃跡半とて此に隠あり老狐い塚に伝ふける  
か今もありしと云ふ事

○追分 是ハ樂田のちし太山崎菅野や街屋の追分あり

○寺外從三位鳥木林天神 社、字  
三木 樂田村

○諏訪明神 同所 祭七月廿日車三輛あり

○樂田村内ニアリ 地境不詳 禪院口邑永泉寺末 養善庵 平

本尊

同山

禪臨宗の心より東法隆寺

長老

○(乐田村内寺境一町  
一五菽林共備条除

京徳山永泉寺

塔頭一字

枝原軒

地内一五ト除地

本尊阿弥院

中興府下尾頭町  
泰雲寺分黄史  
為本寺先本寺と安立

同山智日大聖和尚禪師

遷化分二百年忌宝曆廿五年  
し左スレハ天正年間十九名府  
政寺同山ハ大聖師ノ才子ト云

○(乐田村内  
寺地不詳

真言浴陽寺室仁和寺子

秀圓山密嚴院

平

本尊

○(院内  
觀音堂

同山

高院ハ世古禪林ノ三洲村正眼寺末派廢壞ノ古跡ナリ  
中松院ト号シ改メ之禪ニ午年十二月十七日正眼寺ハ  
寺不搆所ニあり一カ後午搆所大穴ノ為ノ燒失其後所ト  
美譽を結ビ一カカ右カト云是ハ易地ハ同村ナリ

○羽黒村(小町庄東西  
モキ村里)

河原町 二日町 堀田 朝日 鳴海  
稲葉 高橋 鳴海町田 前田

式内

○從三位鳴海杵天神

一無  
杵字

羽黒村修験者

真福院 扣







るありけるに日蓮上人の法華經一部を  
の如き似し神とて一巻の太廿四寸三寸とありし長廿六寸  
文字二合四方にちりちりしと云に見し人の物  
はりき今お思ひの氏権系とて二希指しける筈に  
権系と申すは是れ女の子のまゝまゝに祈代権系領地  
に在りありしと云ふ

○磨墨塚

磨墨塚 今て権を授けおの塚に権を授けり昔り権系  
系は義経公の合状より後妻ありしと云ふ合殿の想り  
活く途へ去り名馬磨墨に纏めてお別れ羽黒の里まで  
去りて馬を授けて馬の長途に寄し死にけると云ふに  
権を授けりと里民の法

お思ひの邑をい難し左の畠中におり回り市敷ありて権のち本  
指言く是申す者にけりを不審な後おれ共祈しき  
と云はくは深く尋す天文天正の権に是に権系行来と  
いひて銘を侍をを授けしといふりく信をせりを平義

系め末葉より其後と不知権系行来と名をてけ羽黒  
の里にぬめし一に願をり権系行来と名をてけ羽黒の  
権、本々時長母も用山和尚の権系氏其外お思ひの  
を名をり人いぬとありたはたはとありて権系と云に  
りり平義系を授けし物ありて彼二希の矢に他を  
てけりお思ひの四亥午亥月行のたえやるに彼塚を  
いけり一塚ありし里人を待て尋すに権系と云ふ  
多しありて人の知ひありし市に尋すに権系と云ふ  
被授けられたる上に尋すをせし

○晴明屋敷

晴明屋敷 (お思ひ村) 晴明將士昔御中宮にけり  
けお思ひの村氏葉にそめてありけるに葉虫のありて是れ  
と云ふ一葉をてお村の葉にそめて出でて迷惑と云晴明我  
を其知にけりし一葉をて一葉をて一葉をて富とハ  
及をて一葉をて一葉をて一葉をて一葉をて一葉をて



今も往りの物に虫不村人らといはるまの七さかこつて  
廿葉細く入て虫のまじりあはま(あ)

○羽黒川 十里の南にぬ黒川とあり天正の勅に去中蔵  
ちの婦林に陣をばてけ川を前にあて備へけるとうや  
入床の知川より流る川にして常はけきこ然るに晴  
は雲中へけり通ふにけ川をけり山川ありけにけり  
増りて付来自由あけ橋は是をいふ多せしとあり地の下  
を流せ上へ石河系ありまふ斗の川希女のあくと流るは  
あ流る年彼出まの境の下河系と等し

禪臨大山瑞雲寺

妹国山真禪寺 平

○お悪村境内ニ  
七以下係前除  
本尊

開山大通真源禪師東陽大和尚 小笠原和泉寺  
判形あり

小笠原和泉寺開基にて位牌あり有て和泉寺菩提所と云

○(口)邑境  
五以下係除

挑岳山笑面寺 平

右口新 ホ

本尊

開山

○(口)邑古境  
不詳

白甘藤山観音寺 真言濃長寺和郡大川村和成寺末

○境内 観音堂

本尊

開山

○(口)村城内  
不詳

観音堂

山伏

真福院







地藏堂九尺 阿弥陀堂此地内を以て東西四町市町七町半

地藏寺石仏此地内一町半東西五町市町六町

一町部齋五村某町某

○山名邑ヤナノムラ 北南兩村 吾妻路記天文二年仁和寺ノ日尊海僧正ノ記行

やふとつた所を一町一里にいと  
善しきか年あつる内とつて其銘  
記りぬるは

梓らふれの里へ一帯におもひつるも 梓のそ

○南山名村寺境四五町以下  
此同南西四十町 南東四十町 佛系除  
禪悟溪流大山瑞泉寺末  
多福山顯宝寺平

本尊

開山悟溪大和尚

- 新迦堂 三間四角
- 鎮守伊勢大神宮 二尺四角
- 客殿 長十間柱三町庫裡に  
前へをる附心

今客殿庫裡新迦寺隨字社共竹物出丑正月十九日冬上

○悟溪屋敷 山名村 開山石塔あり 尚多札

此地内弘法八家 高西十一町 南八町 松林從前へ備前除地

○觀音地 一町 此地を弘法八家 東西七町 除地 村北

○藥師堂 二間 四町 一町 此地三町六家 東西六町 南除地

○從三位山那天神 言雄庄 南山名村 鳥井 撰社 社人



出雲風土記曰須佐能袁余御子八那若日女余ト云日本紀所謂大屋津姬余是也

○式外從三位借野天神

何地不詳

言雄莊下地村明神  
歟ト云

○氏神

大明神 天王鳥殿 下地村

社宣 村浪孫ト云

系ハハルハ多ク塔九正也 天王祭六月十日也

○古城址

在小口村卯方但属村落内由輪内東西五十步南北五十八步四方在三重堀曾而織田和泉守居住之其後織田與次郎法号亦接之大山改城ト云云

○小口村古代 寺多之以十四寺  
東西三三三  
南の十三三 前除け内三井 菰あり

後岡山派金井村後林ト云

吉祥山妙徳寺 出世

本尊

客廳 長五間 横三間

岡山大嶽和尚

鎮守 天神社 一尺二寸四面

岡基

尚山某翁ハ昔祿之辰幸之尚邑城之織田是江中平廣迄也  
再與某翁ハ永祿元年幸村任人酒井又在西の末

○式内從三位小口天神

稻置左 祢宜  
小口村

拜殿 鳥井 系

○小口村 古内不知 秋島村

禰曹泊尼ト

檜巖山因應寺

本尊 花叢狀

久保一色村庚申堂兼寺ト云

高橋ノ晩年宛

岡山一室妙信尼

岡山尼本像アリ

尚所從古唐地宮爲享岡尚村九爲門ト云人説之云代百三

○言本村境内  
吾不知也

禪臨中島郡外與古未

高雄山往生寺 平

本尊

岡山

○六所明神

言本村境内  
村付セテ  
相取

拜殿 華表

高橋八月十日無馬二足村中より神あり行儀

○天神宮 六社明神 二社

言本村

(社地林七五分  
前ノ陸地)

○從三位前利天神

一作  
前刀

交藤村

倭名抄曰丹羽郡前刀ト云 續日本紀曰承和八年縣主前刀  
連氏益賜姓縣連 神八井耳命之後也ト云

○藥師堂

山口村 小山名村 竜泉寺在

此地内九段ト云 東西ト云 南北ト云 陸地ノ内  
陸地ノ内ト云

○福宮 社宮神 百新社有之  
陸地ノ内ト云

○三明神

大尾松村

山口村 牛松寺在

拜殿 多弁

高橋八月十日無馬二足村中より神あり行儀



○大屋敷村

今この地内不承地買田村  
といふ故廿四家持前跡にあり  
当地今も境内不詳

源常三河に服す

鶴生山長松寺 平

本寺 寺師 仙 聖徳寺に

中島郡 桑田村 久しとあり  
中興 寺 持 易 地 此 山 寺  
鶴生山と云い 今鶴生と云

用山

源隆 寺 師 心 寺 中

太龍山徳林寺 平

本寺

古田八以十寺 寺  
口田下り 宝光院

同山 壽嶽禪師

永禄六年、比新定以四年と  
二百廿九年、ある一宮村真光寺  
口完山

口田下り 徳寺  
口田下り 徳寺  
口田下り 徳寺

栲山小の徳寺

○小池物語略誌

又此の頃、山内郡羽走村の内、山内は、  
と云ふ所、侍多き中に、福富新と云ふ人あり、  
いふ所に、をいふ所、大と云ふ、いけ、人、  
守、た、び、年、茶、巻、り、を、求、め、も、や、と、思、ひ、  
里、に、お、り、新、の、老、人、に、尋、ね、て、い、け、山、の、  
葉、と、い、し、が、口、と、云、所、















尚石松村正位年向序下古後稻高宮序延年之末了く  
序下の巻に記す

○宮後村境内  
不詳

小栢山安樂寺

本寺千石銀臺是竟古師允尚列寺為目唯此所

用山寺まゝ不詳

○不詳門村山ノ坊村下云

福宗修成任

寺守

本寺如意輪觀音傳教大師廿九日為因次終所

此古淨道了と云多記ありしと云今も善きと云あはれ

○不詳從三位奈良志天神

言維左  
奈良村

社人

稱天神社

拜敬

名井

系

○神明一社

田三五分  
地下除

上奈良村

口村

天然寺扣

○式内從三位稻置天神

稻木庄  
寄木村

俗氏稱寄木天宮  
曹洞尼守之令易地

倭名抄云丹羽郡稻木ト云古史記曰大中津日子命  
稻木之別尾張國別祖云依日子之孫附會日天子者歟  
夫天道者浮屠氏祭北斗號也 東鑑曰天道北斗云云  
或書天頭而元大日靈尊又謂天道根命之者共牽  
合説也

一云天乃沖

丹羽郡寄木村  
稻木沖社

在社實ハ或ハ不謂本浮屠氏

稱天道大日祭日輪卜部家以天乃浮屠氏の所号諱之  
為別天神高皇產靈尊者附會之近世小黙祠官見舊事









尚山社在りて是年山崎徳吉と云曹洞宗年流（永祿九年）改て嬾桂山久昌寺と号して干の湊下の傍に下りて住雄  
の母は久菴慶昌尼が檀越也其後院を移断絶天正五年（1577）  
才と云雄山和尚再興夫より下松末刹と云ありて是亦是也  
度代と云在斯の如為墳墓地依て是と云彼氏徳慶寺に云

嬾桂山久昌禪寺鐘銘

南瞻部洲大日本国尾張路丹羽郡稻木庄柳橋郷小折村  
者藤原氏生駒利豊累代之領主英産地其淑媛室寿院  
殿月岩榮珠大姊亦生縁之靈地也美少而結誓於東武  
老来而寄生於西京惟昔掘指慶安二層屠維赤奮若小  
春十五日者伏值于先妣椿岩妙壽大姊五十遠忌之辰嗚呼  
生前不尽迨志孝廉之情身後不報託胎劬勞之恩常慕先

妣之道場於寸胸中忽憶聞鯨音之功徳於千里外矣是以  
施淨財命鳥氏以天地作爐以陰陽作炭活火烈焰洋銅銷  
鎔造工俄頃而巨鐘新成矣六十餘之甬衡大多少之旋象  
四方通達八面玲瓏張鯨口則不屑扣擊手虚空之鉦錘擊  
龍頭則似具吐露白雲之意氣見之者結般若縁嘆美聞之者  
覺煩惱夢歡喜矣夫原鐘者叢林號令資始也曉擊手則  
破長夜警睡眠暮擊手則覺昏衢冥昧又增一阿含經云  
打鐘時一切諸惡道諸苦並得停止矣行者鳴鐘之偈曰願此  
鐘聲超法界鐵圍幽暗悉皆聞塵清淨證圓通一切衆  
生成正覺矣這一音起則近里士民者得眼功德其三墨  
鳴則遠邇女夫者得耳功德度生薦亡之縁莫大焉



余謂二六時中宣其教令使人天幽明異類聞聲警悟以證  
 入四通三昧先妣道場久昌禪寺可計日成功矣伏願檀越憑這  
 功力現世攀王母之桃全保壽齡來世與總持之蓮直得穩坐三  
 世安樂而又昌厥後昆矣予依檀越之堅索不愧他美方叨記  
 但語羨辭銘曰 炉於天地 星火飛生 洋銅鑄出  
 巨鐘新成一音雷起 三疊時鳴 尊衆競集 睡魔夢驚  
 豁然悟道 忽尔聞聲 拜佛摸靴 薦母經營 善修白業  
 特抽丹誠 楓橋月朗 豐嶺霜清 寸筵猶緩 大器不輕  
 叢林之樂 英檀之榮 村里豐饒 國家泰平  
 慶安三年庚寅歲仲夏十五日 妙心派下瑞雲山政秀寺  
 住持比丘徹源叟袒但謹記焉  
 治二名古屋住水野太郎左衛門尉政長

○(小折)村古内寺  
 如以分備前除

徑寺口是久居了未

櫻雲山常觀寺 平

本尊地藏尊

尺六尺余或記云吉備大臣請く云云示  
 或ハ嘉祥仁壽年中請く云云ハリ

用山

編云云古村寺觀音の古寺也花井ハ古寺の古寺也  
 其後寺に新造の古寺也或ハ古寺の古寺也  
 其の古寺也其の古寺也其の古寺也其の古寺也  
 其の古寺也其の古寺也其の古寺也其の古寺也

讀列山田郡十河郷高原天神觀音口應永十三年六月十七日

五六  
 修寺を勸め延享六年再興修造ありし七年三月  
 及修修を其河自晦を其古寺の古寺也其の古寺也



○小折村境内ハ以  
六代年貢地

禪曹口折久留子未

大雲山般若寺

村上山アリ

本尊

岡山

○小折村寺名  
二殿年貢地

右口以未

龜岳山瑞々寺

平

仙境山松巖寺アリ  
別カ是カ

本尊

岡山

○富士塚 (小折村富中街道)  
傍一奇松木立アリ

碑石山上在リ銘文左ノ如シ

尾張国小折村富士塚碑誌并銘

天地者生之本也先祖者類之本也孝子慈孫不可不知其本也尾張国  
士生駒主計利勝為其祖建碑于小折村富士塚而欲著其功迹其慶揚  
其名聊記履歷以請詞于余余感其不忘本之志也其家傳曰在昔忠仁公  
建山莊于和列生駒郷而其末流生々居焉遂以生駒為氏也其後裔移居  
尾列領小折村左京進生駒家廣者利勝六世之祖也文明年中頗有  
聲聞其次如賀守豊政其次藏人家宗其次八右衛門尉家長相繼為  
国士右大臣織田信長娶家宗之女生二男一女其長則秋田城介信忠  
其次則内大臣信雄也其女嫁岡崎三郎源信康由是信長於家長亦  
券遇不謗天正十二年信雄與相国豊臣秀吉有隙信雄通志於東照  
太神君議軍事 神君入尾列屯兵于小折山與信雄共赴小折  
村到家長宅時家長兼信雄之余守執列長島城嫡子因幡守



利豐年幼庶兄右近善長在家拜迎之世以為榮 神君自  
小折村登富士塚察視敵境而歸小牧遂成和議同十八年信雄  
左遷家長亦身老閑居利豐應秀吉之命仕閑白豐臣秀次叙從  
五品慶長五年閑原之役利豐屬左衛門大夫福島正則自獲首級同年  
神君一統闔國貴胤從三位薩摩守源公領尾張國利豐亦依命屬從之  
其後及從二位大納言源敬公封千尾列利豐優仕厚遇采邑如故利勝  
者乃其子也今黃門正三位襲封之後特選利勝為令嗣從三位中將之  
傳其世系如此其事實如此古曰祖考之嘉名美譽亦子孫之冕服墻  
宇也利勝嚮無祖先之餘慶則豈得今日之庇蔭哉今無奉先之考則  
世之事業不垂於不朽也可謂追遠繼志者也嗚呼百行皆有本也本立  
而枝繁葉密猶於後昆有所期祝焉詞既成且係之以銘銘曰

小折之村 陟彼高丘 富士不遠 累累塚幽  
松林接影 木曾入眸 西顧淡海 東指參列  
爰問絕景 猶記昔遊 藤縣岩存 李白憇休

臺國服信 以祠武侯 矧又此境 神君停輶  
風拂旌旗 日照戈矛 耀榮一時 流譽千秋  
天和二年壬戌二月上旬 東武列學整宇主人 林憲直民誌

古人不立碑曰子孫不才徒為他人作鎮石耳斯非謀其功乎又有沈于水中而豫推  
陵谷變遷者斯非謀其利乎吁功利者非道義之當然也夫時有盈虛物有消長  
天之數也不察時之不可失不窮物之不可必或可立而不立之或可沈而沈之乃其  
不知道義之所存也乎董子曰正其誼不謀其利明其道不計其功由此觀之吁功  
利之害其事可知焉予知已生駒利勝幹父之靈於此立碑于富士塚竊寓峴  
山之遺風且恭需林羅山先生之嫡孫弘文院學士之令子整宇瑰儒之誌銘  
鐫其祖考之出自仕進而後家系燦然永應共金石存矣維道義之當然可立  
而立之不可沈而不沈之豈暇謀其功謀其利耶方今無利勝之盛舉則富士塚之  
台蹤不顯闔國有富士塚之 台蹤而無整宇之宏才則利勝之盛舉不流累世  
也夫地之依人興人之依文興亦不在茲乎予駑鈍不與騏驎同轡然揚園之道猗  
于畝丘是以強不拒利勝之請而謹書于碑背 天和二稔玄默闔茂三月仲



浣 尾陽詞臣釣耕軒茲河魯山記 関山派下永泉野釋麗特門騰寫  
 跌石東 天和四載甲子孟春己卯日尾陽長久寺現任卓玄修地鎮法 跌石西  
 京師石工来宮石見守左衛門尉藤原廣次流尾刈城下石工井上長兵衛尉藤  
 原廣則鑄之 天和四甲子給孟春吉辰 跌石北

○ 稻水庄安良村昔日前田丹波守領地七万石 而當村古城舊跡也

寛永五辰年 移居於伯刈 其子前田源右三門尉當村遺法号ヲ號  
 賀屋大山居士從古八王子権現社頭一字邑西隅鎮座則梁札云

表  
 文 札  
 南、夫八王子権現一字如意吉祥所  
 一切日皆善一切宿皆賢諸佛大威徳  
 羅漢皆行 滿以此誠實之願我成吉祥  
 寛永五年戊辰 正月吉祥日敬白

裏  
 文 札  
 奉建三八王子之社頭一字安樂村之郷  
 尾刈丹羽郡之内施主出雲国前田丹波守殿  
 被成建立訖然者則武運長久之所也大正藤原  
 次郎左衛門肝煎者前田源右衛門并當村繁昌隆災  
 興樂如意吉祥如件

一 寛文七年八月再建梁札 法印日原行之 誦略

一 延宝八甲午四月上菅梁札一枚 前田源右三門執行 口

一 宝永四亥年二月再建梁 口 (裏書丹羽郡岩倉村 竜潭寺主門吉中誌)

一 享保十年四月再建梁 口 前田源右三門執行 口

一 元文五甲午正月再建梁 口 (裏書小折村社家真福院 執行下口)

一 實保二戌年七月 口 (裏書熱田正五位社家祝部 菊田真人清茂謹白)

一 宝曆十四甲申年四月上菅口断 裏書熱田正五位社家祝部 菊田佐内太夫清度

大七枚梁札付し大正三、六、前田源右三門 あり  
 前田源右三門、今付来一徳信等如左

八王子 一字  
 為子孫誓書  
 中書  
 在核一文子

刀襖如以上 前丹波  
 宝永五戌辰三月  
 前田源右三門尉





一人来て是を修んば考而是ハ修るニ當ルベシハ有ハ修ラズ年  
 無成致の考之人とありしは修りしと云ハ其ノ考アリ  
 為しと云ふ人となしに修りし者我ハ民の爲にけり中に入  
 人相と云ふは在りし法に修りし者我ハ民の爲にけり中に入  
 生田中と云ふは在りし法に修りし者我ハ民の爲にけり中に入  
 内郡杖皇負つると納りてありと云  
 生田中と云ふは在りし法に修りし者我ハ民の爲にけり中に入  
 従三位位記をきしゆりト云

○岩倉邑  
 字今 上市場 中市場 下市場 大市場 東市場  
 冷市場 長原 大田百 小木市場

今之岩倉村録アリ少右に記云保享年中以來為御所度  
 領地無思の所あり 市

○古城址  
 岩倉村居る方郡ゆき西にあり南にあり北にあり  
 二重堀田守留り信出入り寺代りの古城あり

延永十二年の頃ハ仕新波御家上四郡を領知し凡そ  
 尾上郡と云ハ長吉原栗丹山田春日の四郡を  
 云ハ中尾河部野知多の四郡を云ハ上四郡を  
 伴野守領り河部野知多の四郡を云ハ上四郡を  
 領知し清原の地ありけり上郡の各に記し  
 岩倉近き所あり河部野知多の四郡を云ハ上四郡を  
 天正十二年の頃ハ池田信輝ハ大垣よりおし後り  
 十月廿日刻ハ父よりおし山田の地を回りに  
 年ノ刻ハ岩倉守と云ハ長吉原栗丹の地を  
 後ハ是を修りし修入ハ岩倉と云ハ長吉原栗丹の地を



○岩倉村 南々入口西子堀内  
東西三丁五丁南の十一丁  
大門救通る傍の地

浄土法西京知恩院末

知徳山誓願寺 上人

本寺阿彌陀 作不知

同山法蓮社栄誉秀貞傳上人

当城と御用停中傳安の室家其の程所、建至天久十四年  
同寺之栄誉上人、右内室の伯父と云、後年為上りて年物  
信記悉く失却、右具に不知、本堂再興と

○岩倉村 西裏堀内四段家  
傍の隙地を修す地也

福曹白坂寺具末

建雲山普賢寺 知徳

本寺阿彌陀

同山密傳雪大和尚 二丁子田忌定為三申年執事

同山密傳師、白坂寺具末三代の子弟之為所城、信安、密傳の徒を以て之を拓請して一方を建創すと

○同村境知二段  
三丁子田忌

同京弟所、建雲寺末

花月院 平

本尊

同山

右のり末

宝藏庵 口

本尊

同山

○同村口  
二段子田忌

右のり末

宝泉寺 口

本宮  
同山

東口徒六条直参

正法寺平

○ 口村口五郎  
十八年卒此地

本尊阿弥陀

同山

○ 神明宮

井上庄  
岩倉村

吉田伴大夫

拜殿  
多井

岩倉伴野町あり 糸井 太一宮  
薩ノ守忠吉々々長七宮年勢別) 権ノ孫宣授チノミツラ合修理進

元祖の考を伴野天照二所皇太神宮と為撰市某創焉以  
そのて伴野町と不諸段市免許の所系下より五十五十三年  
殿合意し西純一神と為吉田志津摩家市某創の為修  
理進家々某代々社人  
右申緒中三再皇お討部化の必定以四子年お竹一統に  
其旨守部出也

系れ六月上り山車二輛かゝり人形公家馬上二人宛系り但し  
石臺向わくゝゝ路拾はたり一輛は者一人僧を人是り  
馬上系りに此の儀二人系んからり亦其時なる人徳流り  
亦一輛ハ年々かゝり守と大河中彼を中央より注あく川流る  
あり

○ 今宮

口新



○浮世村 足合村の北に永福元年五月廿一日年七月  
三日あり御田作長地、如陣あり名人會智と全戦あり  
場所是と浮世全戦といふ事あり

○浮世村と境  
不詳

東の徒古系出系

法林坊平

本寺阿弥院

岡山

西の徒古系出系

願行寺口

○（口邑境内  
五分寺賣地

本寺阿弥院

岡山

淨法名會誓乳了末

廣福寺口

○（三）  
定人ぬ根村地内  
九回分賣地

本寺

岡山

淨法名會誓乳了末

榮松山神清院口

○（  
為地村と境  
五分賣地

本寺系師也末作不

岡山莊蓮社教養上人

境内に歴代爲す大松一株あり  
爲地の一本松と云ふ  
小田井境の事あり

素氣時代ありく不氣拙るに是師者考りより考きことあり  
けると後年古山の号を經て一寺といふは物ありん

三ノ平  
○大地村境内一ノ二ノ地  
前ノ地

志ノ位ニ列地ノ寺ノ後ノ末

正起寺平

本寺 阿弥陀

客殿長六ノ横三ノ

同 見山不知由

寺ノ大改宮ノ後末

松林寺平

○ 口村寺地  
寺ノ地ノ除

本寺

同 山

氏平  
神明宮

大明神社

観音寺

口村

○ 観音森

松林ノ寺ノ除

大地村

寺外

○ 從三位赤見国玉天神

一ノ無ニ赤見ニ字

拜殿

言雄在  
大赤見村

社

○ 大赤見村寺地  
寺ノ地ノ除

本寺

同 山

浄土西山流一寺ノ會ノ末

栖立山常福寺平

○ 口村寺地ニ及分  
寺ノ地ノ除

本寺

同 山

境内

○ 白山宮

慈眼山福泉寺平



○富士権現社

(社内廿家田  
五分分隣村)

大赤見村

口村

福泉寺

拜殿

華表

系

社人

○式内從三位阿鼻麻天沖

(江城左  
天摩村)

一作吾馬  
今稱天神

按出守國生馬社同之歟生馬神社多作  
保食社也

私云姓氏錄曰安墓饒速日命七世孫十千元大連之後ト云  
是及津氏祖也

○天摩村境内古町十五家東西  
十三間南山十五家村除

本堂阿弥陀

什物

阿弥陀蓋條一幅

十字名号

世如上人出條

宣如上人志

瑞泉寺

本堂

長三向横ニ有

社人

○式内從三位削栗天神

言雄庄  
勝栗村

稱ハ幡宮

拜殿

多々

按削當作刺倭名抄曰栗刺俗久利乃以我ト云

○式内從三位鹽道天神

稻置左  
塩尻村

社人

稱神明社

○式内從一位阿豆良名神

口庄  
吾髮村

一五髮トス

釋日本紀曰尾張風土記中卷曰丹羽郡吾縵卷向珠城宮御宇  
天皇是津別皇子生七歲而不語傍同郡下無能言之乃後皇后  
夢在神告曰吾多具國之神名曰阿麻乃弥加部比女吾未得祝

若為吾元祝人皇子能言亦是壽考帝人不見神者日置部等  
祖建國君下食即遺不見神時建國君到美濃國花廣山琴賢木  
枝造綬誓曰吾綬落處必在此神綬云落於此間乃識有神因堅社由  
社名里後人訛而言河豆良里云

多外 天彥津媛命

志々下室村地多々末

○我室村古地  
二以古地也

本寺

同山

○三社大明神 社内二反分除  
口古扣

金剛院 平

○口村境内  
三反古地年更地

本寺

同山

宝昌寺 平

五  
○北小湊村古内二反  
五反分除

本寺

同山

禪曹言測正眼古末

國榮山全久寺 平

○口村境内二反二反分  
不納山内テテテ

本寺 詔學寺

同山

禪院言測正眼古末

普門山大慈寺 平

大明神 今祇  
天王 山王 權現

社内二反分除地終四一反分  
備前除初三反分村傳千

系八日月子無馬二之

取 多井

大慈寺 扣

口古二人ク也



市内

○ 從三位奈波天神

丹雄庄  
丹好村

古事記曰神八井耳奈尾張丹羽臣祖云云

源臨田村家光云云

○ 惠日山東光寺 平

○ 六 石村古地 三 取分年貢地

本寺 某師

同山

○ 明神 神明宮

社内一五  
三取分年貢

丹羽村

口村

東芝古地

○ 三 石仏村古地九取 其寺傍前除

本寺

口家小折村久昌云云

○ 稻添寺 口

同山

○ 山神 八剎宮

其社内五取  
一取分年貢

石仏村

口折

稻原古地

系九月九日幣言石仏村之定神也村之定少取村之定 其村之神  
前より後

浄西丁家村常念云云

○ 浅野山常保寺 平

○ 浅野村境地一取  
九取分年貢地

本寺 某師 不知作

同 臺 空 光 立 佛 初 尚

二 世 同 山 山 空 信 澤 初 尚

之福七十年十一月廿七化

口家右常保云云

○ 兼守山東福寺 口

○ 一 村の地 三 取分年貢地

本寺 某師 弘信大師化

神古 役行者 同山 空光之信和尚

高子三信和尚常保子と追記して流九地に再具同善行者ト  
ソハ古流ありて然共妻ト信来記ト

福曹三の流正眼古末

仙境山禪林寺 于

○ 口村古流を互  
ミ似分るに際

本寺河海院 惠心僧都代

中寺南の  
寺行寺 里名代  
古松大像

同山正眼十五堂豊和尚

此古天多宗とて比叡山根中寺との峯に宗師と御信大の是  
坂古山三子とて一寺ありて古流く後寺改宗再興今以  
山王宮ありて古流

山王宮 多井

福林寺大門面了蓮花寺松山内院院毎秋  
八月五日あり馬の塔湯三浦寺あり

○ 浅野村 今七ツツ分  
室山名あり

上流神 水のり 地口 大石  
山王流より下流子 多の各あり

市村山古流跡 正眼寺末流の福林寺河海院村内ありしに  
中興追記ト今古流之取分地ト一が富と成り

○ 古城墟

三井寺を村あり 攝内東西二十間  
南に廿五石四方一寺流あり

是處源内古城墟トて大小年同に建永禄五年に崩去ス  
今之川井寺を村と唱へ之後ありては極むぬ其全侍あり  
あり源内実名を改言をト一に右領知の後たの如く明来り  
源内ハ流守府將軍を秀竹の末葉源内正普年普徳の流系  
より今之尋山寺とて古流ハ七代古流ありて今之善所  
あり村の寺墟地を信古あり 古村古流とて建道今にあり



糸の等供物不ハ市江以裁の式に葉山氏有妻あり略々  
 其の葉山の清系勅解妻の時此地を渡葉係一幅葉友  
 妻り菩提所(之新)村正眼深き事所方々葉山氏乃一傳  
 傳身傳事由是におのり女由の由結あり  
 尚葉山氏等知事今年集の乃鏡より是由結書力由の結  
 ありて包く吟味おらむと其の在深く探り求む周而右氏  
 葉山の卷實各法号由結事小葉と其事長事其交略々  
 情の事(法)耐不事經合而卒之今断絶之能表達下とこ  
 下葉葉集の撰者(一)

○三井寺を村 但し  
 境内四畝九歩 備前條

神書三條正眼書末

松鶴山長福寺 平

本寺 觀音寺 作不記

同山正眼世明叟和尚

尚右左の寺長古ト云後今年改号  
 屋代久一色共長く不記トナリ  
 尾長氏菩提所正眼を後由名  
 主保今年ハあると云次トナリ

右口以末

三井山各方寺

○三井寺を村 但し  
 境内四畝九歩 備前條

本寺 觀音寺 作不記

中奥同山正眼世代久巖和尚 本山易地同用也

淨法多村法法地末

神通山觀音寺

○三井寺を村 但し  
 寺地四畝九歩 貢地

本寺 觀音寺 正眼 同山不詳

寺長也百徳末

三井山真珠院

○三井寺を村 但し  
 寺地九畝九歩 備前條

本寺

同山

喜出世法印





○熊代村境内  
五五一畝八斗半量地

本尊阿彌陀  
開山法順塔

寺の住持末法寺

瑞仁寺 平

此寺は古くより名を歴代久し法順  
寺の所為末法寺に改宗せし其時代  
日不知菩薩誓願の寺ありしに  
長く是地にて住持兼什部由緒と  
す

後曹之洞に眼を末

水生山多宝院

○折津村 境内二反  
傳法寺村 境内二反  
十五畝内五畝十斗半量地  
五畝五畝の印印田地下の跡

本尊 開山

三洞村に眼を昔の寺に齋院

△高野末勤寺院之部

○外崎村 境内二畝ト  
月宮山恩光院 平  
柏木林村 境内一畝五分

解脱山専修院 上人  
境内一畝五分

○上奈良村 境内二畝ト  
竜奥山天然寺 西寺  
九の字場村 境内一畝五分

出現山去王寺 平  
境内一畝五分

○塩尻村 境内二畝五分ト  
慈眼寺 平  
山王宮 相澤多井 境内

境内七畝五分内二畝ト古屋敷  
紫乳

○森本村 境内一畝五分ト  
福寺 境内一畝五分  
小山倉村 境内一畝五分  
金王山向陽寺 平  
境内一畝五分

○音市坊村

源唐之洞に部を末  
口八段十八分

法正寺  
○川井村

源唐志倉武庫了末  
口六段五分  
川井山大正寺

○普本村

源唐字所村柱林了末  
口二段五分  
丹翁山本為寺

○高屋村

源唐字所村柱林了末  
口二段五分  
高屋村

○御供所村

源唐御供所村柱林了末  
口二段五分  
大芝山柱林了末

○五明村

源唐小舟村了末  
口二段五分  
一見山道善寺

○今井村

源唐小山路了末  
口一町五分  
陽林山光坊了末

○時多村

源唐花子長屋了末  
口五分  
久昌山自昌院

○栗栖村

源唐意心了末  
口五分  
浦陀洛山大家了末

○前田村

源唐小山路了末  
口五分  
鶴栖山福昌寺

○下地村

源唐小山路了末  
口七分  
金花山覺王寺

○才津木

源唐小山路了末  
口五分  
吸江庵

○大石根村

源唐小山路了末  
口一分五分  
白雲寺

○九日市坊村

源唐小山路了末  
口一分五分  
一乗山妙法寺

○八田村

源唐小山路了末  
口一分五分  
長要山了末

○室水村

源唐小山路了末  
口一分五分  
永持山妙法寺

○川井村

源唐小山路了末  
口一分五分  
光善寺

○小山村

源唐小山路了末  
口一分五分  
西園寺

○浅野根村

源唐小山路了末  
口二分五分  
急坂了末

○地湧村

源唐小山路了末  
口二分五分  
良倉了末



○<sup>四</sup>加納馬場村

東門徒古地是也  
口五町分

○<sup>三</sup>善徳寺

○<sup>六</sup>神野村

東六條近東  
口二町分

○<sup>三</sup>覚徳寺

○<sup>六</sup>右門村

古地近東  
口二町分

法光寺

○<sup>四</sup>町屋村

口一町五分

○<sup>三</sup>泉長寺

○<sup>六</sup>右門村

古地近東  
口一町分

願永寺

○<sup>四</sup>佐地村

東方地是也  
口四町分

○<sup>三</sup>西山寺

○<sup>六</sup>右門村

口一町五分

兼覺寺

○<sup>三</sup>佐地村

口一町五分

○<sup>三</sup>泉長寺

○<sup>六</sup>岩倉根村

口二町四分

淨山寺

○<sup>四</sup>善徳寺

口一町七分

○<sup>三</sup>西山寺

○<sup>五</sup>南小川村

東門徒近東  
口五町三分

西福寺

○<sup>三</sup>外垣村

口四町四分

○<sup>三</sup>本光寺

○<sup>五</sup>積塚本村

東五条  
口二町一分

淨蓮寺

○<sup>六</sup>栲瓜村

東三石近東  
口九町一分

○<sup>三</sup>正久寺

○<sup>四</sup>橋本村

東五条  
口七町四分

徳法寺

○<sup>六</sup>急堂村

東甲新田近東  
口二町五分

○<sup>三</sup>淨恩寺

○<sup>五</sup>古知地村

東江戶御草近東  
口三町五分

報光寺

○<sup>三</sup>古知地村

東江村近東  
口二町五分

○<sup>三</sup>泉徳寺

○<sup>三</sup>高郡 諸名帳 所謂地者不知社号ノ部

○ 從三位伊賀之原天神

饒速日命六世孫伊我香色乎命

○ 從三位諸鐸天神

按海部郡諸鍬神社同神歟

○ 從三位宅美天神

按舊事紀曰日本武子武田玉尾張國丹羽建部君祖宅訓多幾子再建語通大和國宅布世神社姓氏錄所謂多奇波世君也然則宅建也美君略語也

○ 從三位託美天神

一作工姓氏錄工造火明命十世孫大美和郡社乃命後也

○ 從三位小田天神

○ 從三位新溝天神

溝一作居或作屋

○ 從三位松杜天神

○ 從三位垣田天神

一塩田作

○ 天王

小折村

○ 系八日言言言塔

言尾村

○ 系八日言言言塔

定多村

○ 系八日言言言塔

小池村

○ 系八日言言言塔

小池村

○ 系八日言言言塔

小池村

○ 系八日言言言塔

小池村

口邑自昌塔

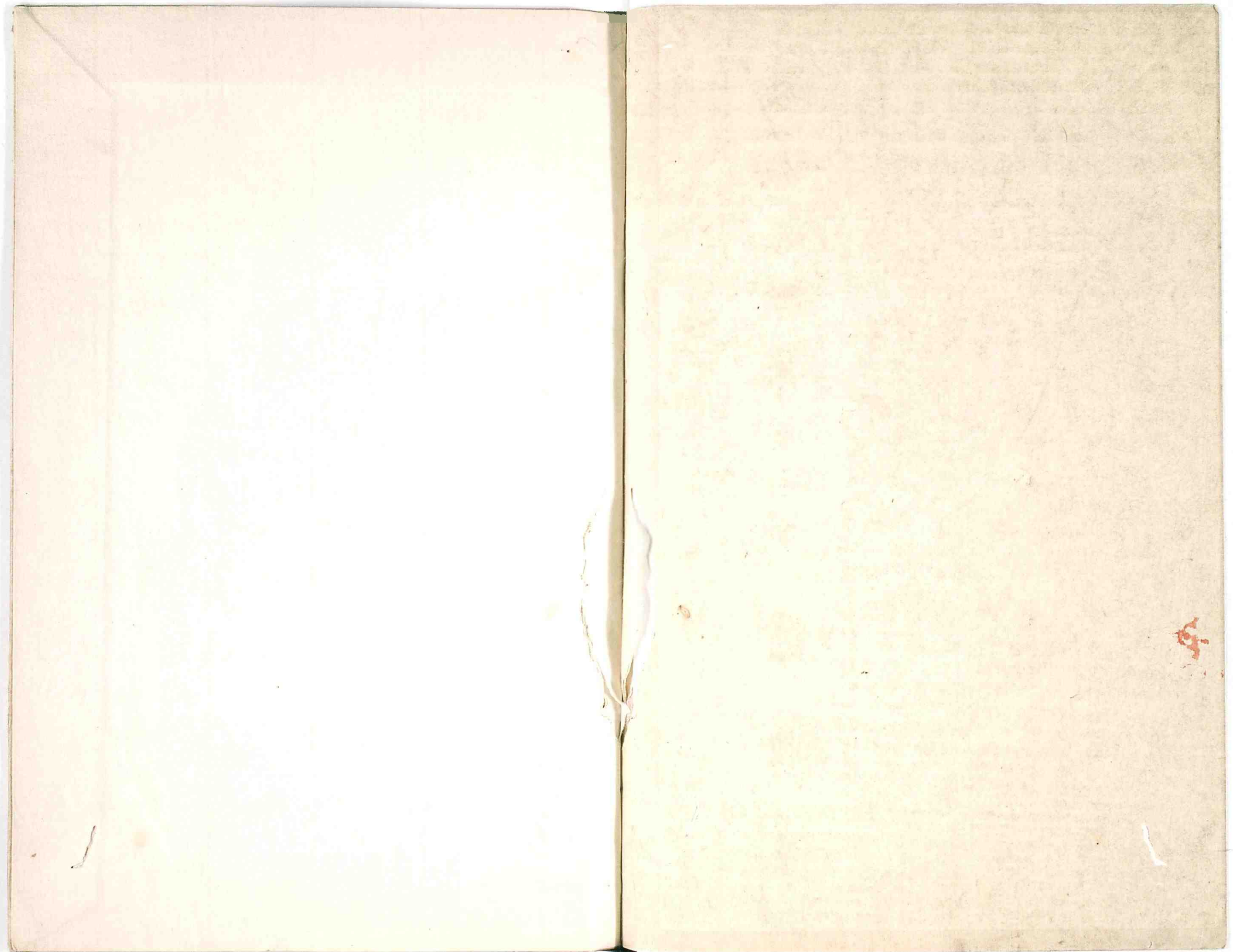


○(二)宮村境内  
四十八家手置地

本寺  
開山

祿臨寺田村永泉寺末

龍  
秋  
寺平





愛 知 県



1103269489